

大野市小中学校再編計画パブリックコメント手続きの実施結果

○パブリックコメント手続きの実施

案件名	大野市小中学校再編計画（案）	
募集期間	平成28年10月11日（火）～平成28年10月31日（月）	
担当課	大野市教育委員会教育総務課	
意見提出者 （提出方法内訳）	58人、2団体（無効9人） 郵便 1、FAX 4、E-mail 19、持参 36（教育総務課6、公民館30）	
提出件数	128通（265件）	
意見を計画に反映するもの	主な意見	教育委員会の考え方
	「小学校2校、中学校1校の理由が分からない」など	再編後の学校数について、理由を記載しました。
	「スクールバスの運行について具体的に示してほしい」など	スクールバス通学についてイメージできるようにスクールバス運行例を資料8として追加しました。
	「特に支援の必要な子どもに関する記述がない」など	インクルーシブ教育について記載しました。
	「子ども達への借金を増やすことは止めてください」など	財政面への負担について、記載しました。
	「現状のままの維持費やコスト、計画試案も事前に開示しなければならぬ」など	建築経費の算定の修正を行うと共に、過去5年間の小中学校管理経費（ランニングコスト）の資料6を追加しました。
	「少子化のスピードにゆっくり合わせる事が一番重要だと思う」 「小、中学校ともに500名超のマンモス校となり・・・」など	少子化の現状について、昭和50年からの「人口動態」と「児童生徒数の推移」の資料2～4を追加しました。
	「学校教育審議会、総合教育会議に第三者を入れる考えはあるのか。」など	「用語の解説」を追加しました。

○大野市小中学校再編計画（案）に対する意見の概要と教育委員会の考え方

別紙のとおり

	意見(要約)	教育委員会の考え方
	1【教育理念に基づく教育】	
1	【3校新築によって、これまでの大野らしい教育史を逆行させ、衰退させるものと懸念】 有終西小学校、その時大野郡全体には35校もの小学校が開校し「明倫の心」はまさに社会の根底を支え続けてきたものです。この広い大野市にわずかに1つの中学校、たった2つの小学校を新築して、果たして私達は大きな後悔の念に苛まれずに済むでしょうか。 今日の消費社会の波に乗って拙速な新築に走り、通学困難な弱い立場にいる子ども達やその家族に過重な負担を課し、一人でも多くいていただきたい教職員の存在を軽視して、どのような未来が開けるのでしょうか。少子化と建築費ばかり打ち出して、このたびの再編計画は避けられないものであるとし、市民の暮らしに大きな揺さぶりを掛けています。これが明治初頭から脈々と受け継がれてきた大野の公教育の目指すべき方向でしょうか。3校新築によって、これまでの大野らしい教育史を逆行させ、衰退させるものと懸念して止みません。	現在の学校の配置でも、人口の流出は進んでおります。その状況も踏まえて本計画案を提案いたしました。 大野の先人から受け継がれてきた結の心と進取の気象を育てるとともに、これからの社会を力強く生き抜く力を育てることを最優先課題とし、市外からも注目されるような魅力ある学校づくりに努めてまいります。 また、通学方法などにつきましては、各地区の皆様と再編推進協議会で協議させていただきます。教職員が少なくなると考えられますが、大野の教育の未来のためにご理解ください。
2	【格差作りであって、教育基本法の「人格の完成」の精神にも反す】 「変化と競争の激しい未来」といって義務教育段階から子ども達を大人社会の少数の「勝ち組」と多数の「負け組」を生み出す「格差と貧困」の「イス取りゲーム」に巻き込むのは格差作りであって、教育基本法の「人格の完成」の精神にも反する。「できる子」「中心地」優先で「自己責任」となることが危惧される。	変化と競争の激しい社会を真に生き抜くために、「子どもは子どもから教わるのが最も多い」との考えのもと、より多くの多様な個性と個性によって磨き合い、高め合う人間力を育てる教育を大切にしたいと考えております。
	2【基本となる考え方】	
3	【適正規模の根拠は正しいのか】 1)児童生徒の教育環境の改善を図ります。2)各学校でこれまで進めてきた特色ある教育を、できる限り引き継ぎます。3)校舎の建築経過年数を考慮した整備を行います。4)再編に向けた準備などについて、再編推進協議会において協議して決定します。とあるが、 小学校は600人程AB小学校の2校、中学校は700人程度のC中学校1校に再編とのことで、この規模になった理由として、中学校については①特に老朽化が激しい ②必要な専門教諭が不足、③部活が限られる ④多様性が乏しい、⑤予算が半分を根拠にされていますが、それは本当に正しいのか。	平成25年度より3年半をかけて、十分検討し、また、これまで学校教育審議会での協議や各説明会で頂いたご意見などを反映しております。 ①～⑤については、そのように捉えております。
	3【適正規模】	
4	【中学校は300人程度が良いのではないのか】 中学校1校化について、一人一人を大切にしたい学びあいの充実についてですが、クラス単位で言えば先生とクラスとしてかかわる時間は変わらないと考えますが、学校全体で見ると、一人の先生と一人の生徒がかかわる時間が短くなると考える。母数が増えれば、接することができる時間が減る、1人1人を大切に難しくなっていくのではないのでしょうか。 よって、大野市の適正規模としては300人程度が良いのではないのか。	一人の先生と一人の生徒が接する時間は減りますが、より多くの、より多様な生徒や教職員と触れ合うことが、子ども達の成長にとって極めて重要であると考えております。 再編予定時の平成35年には2校でもこの学級数は確保できますが、平成45年の出生者は128人と推計されていることから、再編後、生徒数の減少によりこの基準を下回ることが想定されるため、将来を見越して中学校は1校としました。
5	【無理に作った大規模な集団の中では、過度の競争主義しかもたらしません。】 本市の将来を担う児童生徒の教育環境の充実とは何か。小規模校ではだめなのか。 小規模校では、切磋琢磨や相互啓発がなされにくいといわれるが、そもそも子どもは、他人と自分の能力の違いに気づくことによって競争意識が芽生えます。又、自然に芽生えた競争意識は、子どもの行動にエネルギーを与え、能動的にさせます。同時に、競争意識は、自分よりも弱者、劣った者の存在を自覚することでもあります。無理に作った大規模な集団の中で、「切磋琢磨」や「相互啓発」として持ち込まれるのは、往々にして大人社会からの競争意識であり、過度の競争主義しかもたらしません。自然に芽生えた競争意識ではありませんから、子どもたちが積極的・能動的になることはなく、負担になり、かえって疎外感や無気力を生み出すことにもなりかねない。この事について、教育委員会としてどう考えるか。	子どもは、6年間限られた子どもの中で生活するよりも、多くの同級生や上下の学年の子ども達と生活することで、多様な学びや大きな自信を得ることができると考えております。 子どもの潜在的な能力の開発あるいは人間関係を広げていく力は、集団や社会の中で培われていくものであり、そのような教育環境を提供してまいりたいと考えております。
6	【小規模校では生きる自信がつけられないと考えているのか。】 教育委員会では、小規模校では生きる自信がつけられないと考えているのでしょうか。 先般、少年の主張で大高の生徒さんには大変胸打たれました。大規模でも小規模でも同じではないのでしょうか。	
7	【小学校は100人いれば十分な環境と捉えている】 小学校を2校にまとめない理由は、大人数と少人数の教育のメリットの差がわからないため。それよりもスクールバスでの通学にデメリットを大きく感じる。小学校は全校生徒で100人いれば十分な環境と捉えている。	多様な人間関係を通して、お互いに理解を深め、励まし合い、時には競い合うことで向上しながら社会性を培っていくためには、小学校では、クラス替えが出来る各学年2学級以上を確保することが必要だと考えております。 なお、スクールバスについては、安全面、健康面、ストレス面に配慮して運行します。
8	【WHOは100人を上回らない規模とすることを勧告している】 OECD平均から見れば、日本の1学級当たりの児童・生徒数は先進国間とは非常識なほど多い。大野市の小中学校は学校ごとのばらつきが激しく、平均値を下回る小規模な学校も多い。WHOは学校1校当たりの人数について「100人を上回らない規模」とすることを勧告している。日本の学級水準に近づけることが本当に子どもにとっていいことなのか。	国立国会図書館に調査を依頼した結果、「学校1校当たりの人数について100人を上回らない規模」というWHOの勧告は、確認できませんでした。
9	【少人数による基礎学力についての検証をすべきではないか】 私自身の経験で言えば、小学校・中学校ともおおむね22人～23人の学級で育ってきた。他県の大人数学級で育ってきた大人と比べれば、基礎学力について優位であることを実感している。子どもの基礎学力について、県内他市や全国的な数値と比べて優位な教育効果はあったのではないのか。これまでの大野の子どもたちの基礎学力についての検討をすべきではないか。	学校再編の目的は、基礎学力の習得はさることながら、適正規模の集団を確保することにより、今日の知識基盤社会、情報化社会、国際化社会にあって求められる「主体的に多様な人々と協働する力」すなわち人間力の育成にあると考えております。 ご提案のような調査は、行う予定はありません。
10	【影響調査の有無について、調査を行うつもりはあるのか。】 1966年の「コールマン報告」など、一学級当たりの児童・生徒数が少ない方が、児童・生徒の教育効果が高まるという研究結果もある。そうした点を踏まえてか、文部科学省も近年は学級規模を縮小する方向で動いている。その上で、以下の点について聞きたい。 ①小・中学校の学級編成に関し、学力・体力・人間関係の構築などに対するプラス・マイナス両面での影響の調査及び総括はされたのか？されていないならば、そうした調査を行うつもりはあるのか。	
11	【小さければ小さいほど学力が向上し教育効果が上がる】 統廃合するのは、公教育の縮小・切り捨てにつながる。少人数だから学校に元気がなくなるとは限らない。集団の規模が小さければ小さいほど学力が向上し教育効果が上がり、ていねいで面倒見がよい教育指導や地域ぐるみの子育てや家庭地域の連携が可能で通学負担が少ないことなど小規模校ならではのよさとその住民合意が和泉小中学校をはじめ他市町・全国各地でも実証されてきている。むしろ、小規模の方が一人一人にゆきとどいたきめ細かい指導がより可能で、同時に教職員集団の共通理解がはかりやすいためチームとしての教育効果が大きいと言える。多様な科目設置ができないのは財政効率を優先させ小規模校でも多様な教育を保障する予算や教職員配置などの条件整備をしようとしていないからである。	それぞれご意見として承ります。 子どもは、6年間限られた子どもの中で生活するよりも、多くの同級生や上下の学年の子ども達と生活することで、多様な学びや大きな自信を得ることができると考えております。 子どもの潜在的な能力の開発あるいは人間関係を広げていく力は、集団や社会の中で培われていくものであり、そのような教育環境を提供してまいりたいと考えております。
12	【特に小学校は小さな規模である必要があると考える。】 本市の将来を担う児童生徒の教育環境の充実とは何か。小規模校ではだめなのか。よりよい教育環境とは、子どもたちがいかに学校に対して意欲的にかかわれるかということが大切です。人間というのは意識的な生き物です。子どもたちが人間として成長していく過程で、体験というのはとても重要なことなのです。年齢が低い時期には特に、その環境・集団は小さくなくてはなりません。その集団の中で自分が、その集団に働きかけることによって、その集団に変化を与えることができる、そうした経験・体験を重ねることで、社会の中で主体的に生きていく力を養うもの、同時に自分が、その環境の中でかけがえのない存在だということも理解でき周りに大切にされているということも自覚でき、自己肯定感も養われる。 それには、成長段階に即した集団規模が与えられる必要があり、学校、特に小学校は小さな規模である必要があると考える。規模が大きすぎると子供たちはそうした体験を積むことができない。そして学校の中で意欲的にかかわることが、学習面でも力を発揮するのではないのか。	
13	【できるだけ小さな集団・人間関係の中に居ることが大切なのです。】 本市の将来を担う児童生徒の教育環境の充実とは何か。小規模校ではだめなのか。 小規模校は人間関係が固定化されやすいとありますが、子どもたちにとってデメリットではありません。むしろ、安定した継続的な人間関係は、子どもたちの成長にとって必要なことなのです。学校や家庭、地域社会で、親密で安定した異年齢の人間関係が大切ということです。そういった固定した人間関係の中でこそ、子どもたちは安心して毎日を過ごすことができるのです。そういう環境の中でこそ、子どもたちは、自分がまわりから常に気にかけられていること、大切にされていることが実感できます。また、その集団・人間関係の中で、自分の役割、また自分がどういう言動をとれば周りにどんな影響を与えるかといったことを学びます。そして、自己肯定感や社会性が育つものなのです。子どもたちにとって、ありのままの自分で安心していられる集団規模というのは、そんなに大きいものではありません。ですから、できるだけ小さな集団・人間関係の中に居ることが大切なのです。この事について、教育委員会としてどう考えるか。	
14	【自分たちの学校を協力して自分たちの力できつくり上げたいことを学びます。】 本市の将来を担う児童生徒の教育環境の充実とは何か。小規模校ではだめなのか。 基本的に教える内容は学習指導要領で定められているが大きな学校では、授業が画一化されやすい傾向がある。小さな学校では、子どもたち一人ひとりの学習の到達状況を踏まえることができ、その場で子どもたちから出された発言に基づき、授業はつくり上げられていきます。子どもたちはいろいろな考え方をします。想像もつかないような発言が飛び出すこともある。そして、みんなが発言する機会を与えられます。つまり、子どもたちみんなが授業に主体的に参加して、子どもたち自身がそのクラス固有の授業をつくり上げていく。学校行事でも同じで、大きな学校の場合は、管理というものに重きを置かれますが、小さな学校の場合には、子どもたちが主体的に考え、自分たちでつくり上げていくことが可能です。全員参加が可能です。自分たちの学校を協力して自分たちの力できつくり上げたいことを学びます。この事について、教育委員会としてどう考えるか。	
15	【子ども一人当たりの先生と接する機会が多いから少人数のほうが良い】 教職員の数について、配置する職員数の基準が決められていると言っていた。そうすると少人数の学校のほうが子ども一人当たりで考えれば、多くの先生と接する機会があることになる。だから、小学校の間は、少人数の学校のほうが良い。	小規模校では、多くの教職員や子どもと接する機会が少なく、人間関係が固定化しやすくなります。進行する児童生徒数の減少を鑑み、本再編計画案が最良と判断いたしました。

16	【小学校2校、中学校1校というのは、無理がありませんか】 まず最初に、合同合併することは仕方ありません。子どもの減少していくことも分かります。ですが、 1. 小学校2校、中学校1校というのは、無理がありませんか。 まず、1つ目、小学校は少なくとも6クラス、中学校に関しては8クラスにもなる。これは、一人一人をちゃんと見ていけますか。私の時は数学などをさらに2クラスなどにして分かりやすく教えてもらいました。そういったこともちゃんと出来ますか。タブレットも最初は絶対に扱いつらく、教えづらいはずですが、それでもこのクラス数で出来ますか。体育はどうするんですか。	子ども達一人一人に寄り添った学びの支援ができるように、複数の教職員の目できめ細かく指導したり、習熟度別による小集団学習を取り入れたりするなど、指導の充実を図ります。
17	【少人数学級化の流れを織り込んでいるのか。】 小学校については1学級27人～31人、中学校においては1学級27人～31人の規模で計画されているが、国の政策として少人数学級化の流れが進んでいるが、その点を織り込んでいるのか。	国の学級定数は、小学校1年生は35人、その他の学年は40人となっています。福井県は、小学校は、4年生までは35人、5、6年生は36人。中学校は、1年生は30人、2、3年生は32人としており、国より少ない定数となっております。国や県のルールに沿って進めております。
18	【一学級あたり27人～31人の小中学校に固執する意図はなにか。】 国際的には今後一学級当たりの人数を縮小することは容易に予測できるが、その上で一学級あたり27人～31人の小中学校に固執する意図はなにか。一学級当たりの学級規模の編成に関し、市の判断材料となった根拠について、論拠も示して具体的に説明願いたい。	
19	【適正規模(学級20～25人)】 大規模校になることによって、30人を超えるクラスが多くなり、子供一人一人に先生が目が行き届かなくなる危険性がある。低学年時には授業補助者がつくとのことだが、補助者は補助者に過ぎない。20人～25人程度のクラスとし、きめ細かな教育をすべきである。300人程度の学校できめ細かな教育を充実させ、人口流出に歯止めをかけ、大野で子育てをしたい若者を増やしていくことが重要である。	ご意見として承ります。
20	【1校のみ再編。2校は複式学級となるが、9校とも個別教育が徹底し学習効果が上がる】 [提案]10年後の児童数を基本に10年後のクラス編成を提案します。 現在の小学校10校を乾側小だけ併合するという9校に再編する。9校案のメリットとして各校とも学年別1教室体制の中規模学級が生まれ、阪谷小と小山小と和泉小は複式学級となるが、9校とも個別教育が徹底し学習効果が上がる。	複式学級には複式学級の良さもありますが、2つの学年の授業を同時に進めなければならず、指導に困難性が伴います。
21	【複式学級は珍しくもなければ、非難されるべき筋合いのものではありませんでした。】 大野市は、複式学級保有率が高く、解消されなければならないものとして扱われています。明治5年以降、日本の公教育において複式学級は珍しくもなければ、非難されるべき筋合いのものではありませんでした。子どもの数が少なくても、そこにおける人格形成には何らかの大きな過失(例えば陰湿ないじめ、それに伴う自殺行為など)があった例はありません。これからも大野にふさわしい教育の機会均等を基本とした大野の公教育であるようにと願います。	
22	【複式学級の弊害を示して欲しい】 複式学級の弊害はあるのかどうか具体的な例を示して住民に説明して欲しい。	
23	【マンモス校での関係は表面的で希薄になる】 この広い大野市において中学校をたった1校にしてしまうとと言う暴挙に出たら、将来、大きな後悔に見舞われることでしょう。1校ということは極めて危険です。どんなに生徒数が減少しても2校(今ならまだ3校できます!)に留めておくべきです。理由はたくさん挙げられますが単純に言えば、1校だけでは生徒たちも教職員も管理職も離れた他者との関係においてわが身を省みたり、市内でのより良い研修の機会を無くします。2校あれば、市内の学校で助け合い支え合い、相手を鏡にして自分たちを顧みることによってお互いを磨き合うことができます。これは少人数学校より「適正規模」の学校が良いとする教育委員会の趣旨にも合致することです。それよりも、この目的のためにマンモス校にしてしまうことは防ぐべきです。人間性を培うべき多感な年齢の多くの児童生徒たちを一人一人把握し、語り合ったり協力し合ったりする機会がありすぎて、その関係は表面的で希薄になります。大野にとってかつてない事態、つまり想定外の問題が起こることも考えるべきです。	望ましい学校の規模と校数を検討してきましたが、進行する少子化の減少に鑑み、本再編計画案が最良と判断しました。
24	【同世代の子ども同士の付き合い不足】 和泉地区は市が目指す学校教育をほぼクリアしています。同世代の子ども同士の付き合いのみ不足しているだけです。それは工夫で改善できると思います。	多様な意見を出し合い、考えを深め合うことで思考力、判断力、表現力、そして問題解決力、コミュニケーション力、人間関係力を育て、これからの様々な社会に対応できる力を育てなければならぬと考えております。そのために、学校再編を進めてまいりたいと考えております。
25	【600人規模の学校になると先生が子供一人一人を認識できないのではないか】 600人規模の学校になると先生が子供一人一人を認識できないのではないか。また、保護者との関係も関わりのある先生しか持たなくなり、災害時等の対応などに支障をきたす危険性があると考えます。	学校が600人規模であっても、1学級は30人前後であり、子ども達一人一人を把握できると考えております。
4【再編後の学校数】		
26	【市全体で再編、統合という形なら平等】 大野市の再編計画案には賛成。小さな学校だけがなくなってしまうのではなく、市全体で再編、統合という形なら平等でなかろうかと思う。	ご意見として承ります。
27	【小学校2・中学校1の理由】 さまざまな選択肢が検討されてきたはずであるが、どのような選択肢が示され、どのような理由をもって今再編計画の「小学校2校・中学校1校」となったのか。その理由をご説明願いたい。	素案では、小学校は平成32年度の一次再編を経て平成41年度に2校に、中学校は平成30年度に3校、その後、中部縦貫自動車道の開通後2校にすることとしておりました。小学校につきましては、小規模校の保護者から2段階にすることに対する不安や、逆にもっと早く再編をして欲しいなどのご意見をいただき、再編の時期を遅らせ、平成38年度に一度に2校体制とすることにいたしました。また、中学校につきましては、学校教育審議会の答申で、「再編計画の策定にあたっては、学校の耐用年数なども十分考慮して進められたい。」とされており、現在の開成中、陽明中、尚徳中が7年後には耐用年数を超えることと、少子化による今後の更なる学校の小規模化を考慮し、平成35年度に1校とすることとし、小中学校ともに新築とする再編計画案としました。 (9頁に中学校1校の理由を記載し、反映)
28	【素案に戻し、改良していくべき】 素案では、段階的に進め、中学校は2校、小学校は4校の案でしたが、今回いきなり1校と2校、新築という案にびっくりしました。素案説明時には、全く出ていなかったのに、不信感を募らせています。これは認められません。素案に戻すべきです。どこの会議でこの案が出たのかしっかりと説明すべきです。もっと市民の声を聞いて素案に戻し、改良していくべきです。	
29	【統廃合は仕方ない、学校数には反対】 学校再編には、統廃合は仕方ないとしても案の学校数には反対です。性急すぎると感じています。	
30	【中学校2校、小学校4校という代替案も同時並行で検討して】 再編は致し方ないことだと思う。中学校2校、小学校4校という代替案も同時並行で検討して、予算もごまかしではなく提示していただかないと、いつまでもいいものではない。	学校の小規模化が進行している現状に鑑み、本市の将来を担う児童生徒の教育環境のより一層の充実を図っていくことが、教育委員会の役割であると考え、これまで望ましい学校の規模と校数を検討してきましたが、本再編計画案が最良と判断し、提案しました。
31	【小学校2校・中学校1校では、ただ衰退していくのみではないでしょうか】 現在の市にとって小学校の数が多すぎることは確かで、再編自体は賛成ですが、産科も小児科もない大野で、小学校2校・中学校1校では、ただ衰退していくのみではないでしょうか。	
32	【選択肢の提示】 小学校3校と中学校2校のパターンや既存校の一部の改修の例示がなされないのか。	
33	【中学校5校を4校に再編すると良い】 [提案]7年後(平成38年度)再編後の中学校と生徒数と学校別クラス編成を提案します。 現在の中学校5校を4校に再編すると良い。 ① 4校案のメリットとして各校とも学年別3教室～1教室体制の中規模学級が生まれ教育効果が上がる。 ② 小中一貫教育にするため小学校も中学校も現在の学区に残ることができる。 ③ 公民館と小中学校を地域に残すことにより地域と連携して活動することで地域が活性化し大野市の人口流出と地域の過疎化の進行を防止できる。 ④ 小中学校とも耐震補強がされており尚徳中を除いて、当面新築の必要がない。 ⑤ 遠距離通学が解消し、スクールバス運行は和泉地区だけになる。	ご意見として承りましたが、学校再編の目的は、適正規模の集団を確保することにあります。
34	【統廃合には賛成;小4校、中2校程度】 統廃合には賛成ですが、学校数には反対です。小4校、中2校程度が適当。中学校は、2校で切琢磨が必要で、提案の学校数では、近い将来大野の過疎化はさらに加速していきます。学校再編の教育論よりも、大野市の未来、つまりは、過疎化防止と統廃合についてどうお考えなのかお答えいただきたい。 統廃合によって、大野高校が勝山高校と統合し、奥越高校として、勝山に統合されませんか。可能性は大きいです。大野市の未来のために、なんとしても委員会案でなく、もう少し多くの学校を残していただきたいと、お願います。	
35	【大野では2校の中学校がそれぞれ特徴を持った形で運営を行うことを希望する】 新築で建てるお金があるなら、中学校を2校で新築する。形については学校再編協議会を各中学校で立ち上げ、5校の協議会が連絡を密に、必要に応じて全体で集まり議論する。 中学校を2校にする理由は、遠くのライバルより近隣のライバルと身近に競争心を持つ事が子供達の成長に大きく貢献すると考えるため。専門教科の教員については、2校になれば行き来はしやすい。現状の5校よりやりくりは十分行えると思う。よって大野では2校の中学校がそれぞれ特徴を持った形で運営を行うことを希望する。	中学校は、これからの生徒数の減少と、校舎の耐用年数を考慮して1校としました。少子化の減少により、一旦2校に再編しても、さらに生徒の減少が見込まれ、すぐに再々編が必要となるのが想定されます。 (9頁に中学校1校の理由を記載し、反映) また、文部科学省の「学校施設の長寿命化改修の手引き」によれば、長寿命化改修は築後45年を過ぎた建物には適さないとしています。
36	【市内2校+和泉地区1校で進める中で、その後十分に住民と検討】 中学校1校再編予定年度の生徒数688人は多すぎる。 その後の10年、20年の減少数を踏まえていると説明された。また、300人程度でも問題ないとの回答もあった。 大野の子どもを最優先に考えるのであれば、300人程度が確保できている間は10年から15年程度、実際の少子化の推移を確認し、市内2校+和泉地区1校で進める中で、大野市内1校化は十分に住民と再度検討していけばいいのではないかと。	
37	【中学校2～3校必要】 意見・県内一面積の広い大野市で中学校1校は少ない。2～3校必要。丁寧に統廃合を進めるべき。	
38	【700人規模はいじめが多く、教師の目がいきとどかず、個性が失われた学校になるのではないかと】 部活についても、例えば中学校は2校あることで競争が生まれる。平成35年には250人～350校とそれほど小規模でないと。700人規模のほうがよっぽどいじめが多く、教師の目がいきとどかず、個性が失われた学校になるのではないかと。	部活動につきましては、奥越地区、県、全国など、様々な場を活用してまいりたいと考えます。また、学校規模が大きいためといじめが発生し、小さいからいじめが発生しないとは言いきれないと考えております。再編に関わらず、いじめ防止には最善を尽くします。

39	【中学校は2校必要と考える】 学校になじめない子供たちも出てくるのが想定されるが、その場合違った環境の学校や人間関係ができる場所が必要だと考える。子供たちは大勢の中で切磋琢磨していくのであるが、一方自分たちがいる場所や所属している場所に対して誇りを持ち競争するものである。身近にそのような環境がなくなるのは好ましくない。以上のことから中学校は2校必要と考える。	ライバルとして競い合う学校としては、例えば中体連の県大会予選は奥越地区で行っていますので、勝山の中学校がライバルとなると考えます。
40	【中学校は2校に集約すればいい】 238人～272人との大野市の希望推定人数は、国立社会保障・人口問題研究所との176人～118人と相当の開きがあり予測数値として採用するにはかなり無理がある。その平均値を採用すれば、1学年200人、600人規模の学校となり、陽明中、開成中は既に十分な敷地も確保されておりこの2校に集約すればいい。他の2校は思い切って小中一貫校の選択をすれば、農村部やへき地の学校規模が最小限確保できる。	ご意見として承りましたが、尚徳中学校と上庄中学校を小中一貫校にしても小中学校ともに適正規模にはなりません。
41	【中学校は、素案の2校にすべき】 中学校は、素案の2校にすべき。 ・現在の陽明、開成の規模で2校、専門教員問題も非常勤利用をすればかなり長い年月もつのでは。 ・他校との協力、交流体験も必要。連音もなくなるの。勝山をライバルにした駅伝や各種大会、同市だからの感情ってありますよね。 ・学校に行けなくなったときの保険「転校」って大切です。 ・陽明中では、週3以上の外部活動があれば、習字やピアノでも学校部活に入らなくてもOK。 ・テスト結果、市での順位はかなりプレッシャーです。	これまで、望ましい学校の規模と校数を検討してきましたが、進行する児童生徒数の減少に鑑みますと、本再編計画案が最良と判断し、提案させていただきました。
42	【小学校300人規模、3～4校が望ましい】 300人程度の学校であれば十分だと考える。小学校は3校もしくは4校が望ましいと考える。	近い将来の児童生徒数の減少を考えますと、適正な集団を確保するためには、小学校は2校が最良だと考えます。
43	【校区の見直しを図るべき】 市内の学校でこれだけ生徒数の偏りが見られるならば、校区の見直しを図るべき。	進行する児童生徒数の減少に鑑みますと、校区の変更のみでは適正規模の学校を維持することは出来ないと考えます。
44	【校区変更で生徒数の確保が出来る】 子どもを持つ親なら、再編反対が多い。強行は駄目です。校区変更で生徒数が確保できると思う。	
45	【校区見直し】 大野にしか出来ない地域性を生かした独自の教育を目指すほうが地域が活性化し、子どもの教育にもよい結果が生まれるのではないかと。校区を見直し、1クラス20～25人学級とし、地域と協力しながら故郷を愛する心を育む教育はどうか。	
46	【当面は複式学級を抱えている乾側小、小山小、阪谷小を統合】 急いで結果を出す時ではない。将来にわたって禍根を残さないようにするためにも当面は複式学級を抱えている乾側小、小山小、阪谷小を対象に統合を考えたい。和泉小と5中学校の統合は中部縦貫自動車道開通までに改めて再編計画を立てればよい。教育課程外の部活動については、専任の外部コーチを、音楽等の指導については、退職教員などの非常勤講師を配置することが考えられる。	これまで、望ましい学校の規模と校数を検討してきましたが、進行する児童生徒数の減少に鑑みますと、本再編計画案が最良と判断し、早期に取り組んでまいりたいと考えております。部活動や音楽の指導における非常勤講師の配置には、人材確保など、課題がございます。なお、部活動は教育課程と関連した教育活動として位置づけられています。
47	【分校、高校との連携】 例えば、富山の高校再編では、学校は統廃合しても実質的には各地域に「分校」という形で学校を残している。高校との連携学校のあり方なども議論されていない。	平成16年の再編計画の中で分校化の提案がありましたが、進めることは出来ませんでした。分校化は、再編の目的とする適正規模の集団を確保することができません。
48	【分校化】 分校化(低学年)して児童保護者の負担を軽くしてほしい。	
49	【和泉小中を残す】 私は、今年の4月に大野市和泉地区にやってきました。もともと茨城県出身で、小学校や中学校は3クラス、4クラスある学校に通っていた。現在、千葉大学在学中の大学生です。先日の住民説明会に参加して、思ったこと。私は、和泉に来て、和泉小学校や和泉中学校、生徒の皆さんと関わりを持ち、少人数学校の素敵だなどと思うところや、そこに通う子ども達のすごいなって思う部分にたくさん気付かされました。この少人数学校の良さやそこに通う子ども達のよさは都会にある大規模学校にはない、大野市の魅力、個性だと思います。大野市の学校を統合する。まねしているだけだと思います。本当に大野市より良い町にしたいと思っているならば、大野市の小中学校の今ある魅力を守っていくべき、強くしていくべきだと思う。今、大野市がすべきことは、統合することよりも、大野市の良さを伸ばして、発信していくことだと思います。	これまで、望ましい学校の規模と校数を検討してきましたが、進行する児童生徒数の減少に鑑みますと、本再編計画案が最良と判断いたしました。地域の方々とのふれあいや交流は、子ども達の豊かな人間性を育てるうえでとても大切だと考えており、再編後もこれらの活動は継続して取り組んでまいります。
50	【再編した2校に加えて和泉小学校も残せないか】 東京という都会から大野という田舎へ越えてきて、その中でも群を抜いて小さな和泉地区で、子どもたちと出会い、ふれ合ってきた。素直に伸びやかにたくましく、子どもらしく元気に育つ和泉っ子の姿は、大きな街の子どもとは全く異なっており、衝撃と感動を覚えた。和泉のような小規模校では、みんなが兄弟・親友のように仲が良く、一人ひとりの個性が生きて輝いており、いつも楽しそうにしている。地区民も子どももお互いによく知った仲であり、笑い合い・助け合い・学び合っている。いわゆる「狭く深い」関係で、幼いうちから、密接で信頼できる仲間をつくれる。こういった環境というのはとても貴重で幸せなことであり、あるべき姿だと感じた。教育というのは勉強だけに留まるものではなく、むしろ人間力を形成するところにあります。こうした小さな地域にこそ、「結の故郷の教育」が自然に脈々と行われており、その中でたくましい大野人が育まれていくのだと気付かされました。再編自体は避けられないのだと思いますが、例えば、再編した2校に加えて和泉小学校も残す、というような形には出来ないか。そして、大野市内外から児童を取り込み、規模を維持する。大規模を目指すだけでなく、田舎の・大野の良さを活かした取り組みができないものか。僕も、近い将来は結婚をし、子どもを持ち和泉地区で育てたいと強く願って移住を決めた。今いちど、大野市民みんなで再考していけないか。	
51	【小学校は地区の人が見守ることにより教育が出来ると思う】 小学校も2校は少なすぎる。教育上都合が悪くなれば地区の人と話し合っ進めていくことが大切。小学校は地区の人が見守ることにより教育が出来ると思う。	
52	【小学校時代はできるだけ地域の人たちに接して多くを学習すべき】 「結のふるさと教育推進計画」にはここから賛同していますが、これは3校新築案とはかなり相反するものです。学習とは知識を学び、地域への愛着や喜びを体験することで身につくことです。つまり、子どもはその地域にいてこそ生きた学習ができる。地域から離れては単に知識として学べても生活の中で身につくことではなく、ふるさとに誇りと愛着を持つことにはつながらないのです。故郷が子ども達のなかに継承されてゆくためにはその暮らしから子どもを離してはならない。小学校時代はできるだけ地域の人たちに接して多くを学習すべきです。大野のような地方の教育には、祖先がこれまで守り育てた地域を受け継ぎ、次の世代に渡す責任が伴います。福井県の5分の1の面積を持つ大野市、その大野市の90%以上を占める森林や畑やたんぼなどの大地、この大きな財産を犠牲にするような再編計画は適切ではありません。つまりこの計画案に書かれていることは、むしろ現在の小規模校だからこそできることで、大規模校になれば却って難しくなります。	
53	【地域の核である学校の存続は不可欠ではないのでしょうか。】 大野市の隣に位置する岐阜県奥美濃郡郡上市石徹白区は、人口減少と高齢化が進行し、将来の存続が危ぶまれているなかで、30年後の将来も区が存続するように、「将来にわたっても石徹白小学校を残そう」というスローガンを掲げて合意形成を行い、地域づくりを行っているそうである。大野市が将来にわたっても市であり続けるためには、子育て世代を増やすことや定住させることが喫緊の課題であり、地域の核である学校の存続は不可欠ではないのでしょうか。	
5【教育ビジョン(①結の故郷「ふるさとを知り、ふるさとを創る」学習の推進)】		
54	【地区コミュニティから切り離すことで、その実現可能性はより低くなるのではないかと】 「ふるさとを知り、ふるさとを作る」という点について、これまで数十年かけて作られてきた小学校区を基礎とした地区コミュニティから切り離すことで、その実現可能性はより低くなるのではないかと。地域コミュニティや地域おこし団体等の連携を考えるのであれば、市街地周辺地域から学校を遠ざけることこそ、学校教育ビジョン目的の実現を遠ざけるのではないかと。	「ふるさとを知り、ふるさとを創る」学習や伝統文化の継承にも引き続き取り組んでまいります。今後も、ふるさと大野への誇りや愛着を育てることに努めます。
55	【地域に近くなる編成をお願いしたい】 「ふるさとを知り、ふるさとを創る」学習の推進 とあるが、説明会では、地域の文化等を学ばせるように配慮する様に指導しますというが、実施はその学校の校長がスクールプラン等で計画を立てて遂行すると言われた。授業数として、小学校5、6年生で英語科が週2時間、小学3年生でも外国語活動が増え、必須項目でない地域とのかかわりの時間は確実に減ると推測できる。地域と遠ざける再編は地域を減衰させ、ふるさとを知り難く、ふるさとを創り難くしているよう思えて仕方がありません。より、地域に近くなる編成をお願いしたい。	
56	【伝統文化の継承は絶対無理】 地域の伝統文化の継承は物理的に絶対無理。	人口減少及び少子化の現状において、地域の伝統文化の継承は難しくなっています。再編することで、学年毎に各地区の伝統文化などを学ばせたいと考えております。また、公民館活動にも積極的に取り入れていきたいと考えております。
57	【地域の大人達との関わりも希薄になることは明白である】 小学校再編について、ある程度の再編は仕方がないことだと思うが、一気に大規模校にする必要はないと考える。県内で一番大きな面積を持つ大野で、大野市教育理念に掲げる「ふるさとを知りふるさとを創る」子どもたちを育てるためには、先生や保護者だけではなく地域の大人達との関わりが重要であるが再編により住んでいる地域とは疎遠になり、地域の大人達との関わりも希薄になることは明白である。これまで地域の大人たちに子供たちが見守られてきて育っている。	学校は地域の方々にとって、かけがえのない存在であると認識しております。また、地域の方々とのふれあいや交流は、子ども達の豊かな人間性を育てるうえでとても大切だと考えており、再編後も地域の奉仕活動や各種行事に積極的に取り組んでまいります。

58	【異年齢集団の縦割り活動でも教育効果がある】 「子どもは子どもから」「より多くの子ども達とのふれあい」は同年齢だけでなく、異年齢集団の縦割り活動でも教育効果があるし、部活動については異年齢集団との関わりや、地域や地域外との交流も工夫次第で十分可能である。 さらに、小中との連携だけではなく、幼保・小中・高校・地域と結びついた教育効果を充実させることが可能であるし、地域などを切り離すことの方がマイナスとなる。	適正規模の学校をつくり、子ども達一人一人に応じた選択幅の広い教育活動を展開することが大切であると考えています。
5【教育ビジョン(②一人一人を大切にしたい学び合いの充実)】		
59	【人数が多いと授業の時、なかなか自分の意見がいえません】 人数が多いと授業の時、なかなか自分の意見がいえません。 休み時間は、自分のやりたい遊びがなかなか出来なくなります。 また、いろいろな体験学習が少ししか出来ません。なので、学校を二つにまとめないで下さい。	これからの社会を力強く生きるためには、たくさんの人の前でも自分の意見や考えを言える子に育てて欲しいと考えております。 再編後も、一人一人に寄り添った学びの支援ができるように、複数の教職員の目できめ細かく指導したり、習熟度別による小集団学習を取り入れたりと、指導の充実を図ります。
60	【大規模化することで先生の目が行き届かなくなる】 大規模化することで先生の目が行き届かなくなり、子ども達が言いたいことも言えないのではと心配するが具体的な対応は考えているのか。	
61	【学級数や学年数が多くなればなるほど、一人一人は自分自身を表現しにくくなります。】 一つの学校で学級数や学年数が多くなればなるほど、一人一人は自分自身を表現しにくくなります。結局、能力の高い者や勇気のある者の生きる力が強くなったり、意見の多いものの発言が通ったりして、性格的に難しい者や少数で弱い立場の者達は自分を表現できず、個と個の磨き合いは難しく、精神的に不公平な関係ができる可能性が大きいです。わざわざ不必要に多人数の学校にはいけないと思います。害多く、益も偏りがちです。また、一人一人の児童生徒がたくさんの仲間達の意見を受け入れる時間も取れないことが多く、お互いに考えを深めることは難しくなります。	
62	【規模が大きくなることで一人一人を大切にしたい学び合いの充実が遠のく】 「一人一人を大切にしたい学び合いの充実」で掲げられた「一人一人への寄り添い」および「集団の学び合い」の指導・援助という点に関して、学校規模・学級規模が大きくなることによって、より遠のいてしまうのではないのか。	
63	【大野市内で他校と競い合い、意識し合うことも非常に大事】 中学校1校化について、一人一人を大切にしたい学び合いの充実、との事ですが、団体として、同じ大野市内で他校と競い合い、意識し合うことも非常に大事であると考えます。説明会では、近隣の市の学校と競う事で問題ないと答弁でしたが、教育理念が違う学校と競ってもおかしいものです。同じ土台で教育された学校同士がまず競い合い、意識し合うのがベターではないか。ほかの市と競い、意識するのはその後と考えます。よって、中学校は最低でも2校は必要と考えます。	これまで、望ましい学校の規模と校数を検討してきましたが、進行する児童生徒数の減少に鑑みずと、本再編計画案が最良と判断いたしました。 学校間の競い合いにつきましては、市としての一体感と誇りを持って、奥越地区、県、全国の場を活用したいと考えております。
64	【専門教諭の不足について2校兼務、遠隔システムの活用で足りる】 必要な専門教諭の不足について、専門教諭が2校でも行き来できればいいし、遠距離システムでも授業はできる。他の先生が指導を学ぶチャンスになる。また、100%専門の先生を、かならず満たさなければいけないわけでもないと思う。 これからの人口減少・少子化社会では100%を目指すのではなく、足りない資源の中でも多様性に対応する力が教諭・児童生徒にも必要なのではないか。	小規模校にも、大規模校にもそれぞれ課題がありますが、現在、各学校では課題を解決するために様々な努力を行っております。 しかしながら、小規模校には学校の努力だけでは克服できない課題があります。多様な考え方による磨き合いが出来にくいことや部活動の選択幅が少ないことがあげられます。また、音楽、美術などの教科は、感性を育てる上でとても大切で、専門教員による指導が必要だと考えております。
65	【特別教科の専門講師を外部講師として市が支援すればよい】 音楽、美術、技術、家庭の教職員の確保のために1校とするという理由はあまりにも極端です。特別教科の専門講師は大野にたくさんいます。外部講師として大野市が支援すればよいと思います。	
66	【どのような規定があるのか。市、県、国へ要望等は出しているのか。】 免許所有教員の配置について、どのような規定で配置されているのか。 現状規模でもなんとか配置できるように市、県、国へ要望等は出しているのか。	県へ要望はしておりますが、基本的には、「公立義務教育諸学校の学級編制及び教職員定数の標準に関する法律」によって定まっております。また、教科の教員配置数は教科の週授業時数によって異なります。
67	【免許所有教員は2名以上配置するよう県に要望していく必要がある。】 免許所有教員の配置について、中学校1校化になった場合免許所有教員は1名ずつとの説明があったが、画一的な指導になってしまわないか。1校化、2校化にかかわらず、免許所有教員は2名以上配置するよう県に要望していく必要がある。	
5【教育ビジョン(③新しい時代に対応した教育の展開)】		
68	【ALTの充実や英語教育の充実、流出する人口を増やすだけではないか。】 ALTの充実や英語教育の充実を、どこで展開されるか、世界か、県外か。教育環境を充実させても、県外へ流出する人口を増やすだけではないか。 学校に関わる人間、職が減る。働けないのであれば、市外へ出て働く、子供も連れて行く。人口流出に拍車がかかるのでは。	グローバル社会になり、仕事や観光等で英語を使う機会は増えてきており、文部科学省におきましても小学校に英語を教科として取り入れることとしております。英語を含めて、より良い教育を推進することで、子ども達が社会のあらゆる場面で活躍できる教育を目指します。
69	【遠隔指導システムの導入等によって再編の必要なし】 現時点で日本国内でICTインフラが整備された過疎地域に、サテライトオフィスを構える企業が存在することを考えると、今後、小中学校で遠隔指導システムを導入するのであれば、現在の学校のままでよいとは思わないか。 また、10年後には教育に関わるICTも、遠隔指導システムも様変わりしているはずである。欧米より10年以上も遅れている教育におけるICTや遠隔指導システムを、「充実します」とかグローバル化に対応」とかを、さらに7年後や10年後の「小中学校再編計画(案)」で謳うのは、恥ずかしいと思うが、いかがか。	情報が円滑に交換できるようになっても、人間の成長においては、子ども同士が顔を合わせて話し合ったり、手を取り合ったりするような、人と人が直に触れ合う学びが大切だと考えております。
5【教育ビジョン(④小中一貫教育の取り組み)】		
70	【上庄小・中と和泉小・中を残すことや、再編規模をもっと緩やかにする方が目的を達せられるのではないか】 今再編計画案と「小中一貫教育」は整合性が取れるとは考えにくい。規模が大きくなった2小学校の子どもが、約700人規模の中学校で一緒に学ぶことのどこを「小中一貫」と言えるのか。事実上小中一貫状態となっている上庄小・中と和泉小・中を残すことや、再編規模をもっと緩やかにする方が目的を達せられるのではないか。	ご提案では、適正規模を確保することが出来ません。適正規模を満たすことが重要と考えております。
71	中一ギャップについて 現状の中一ギャップに悩まされている生徒の各校での割合、人数、またそれに対するカウンセリング結果、成果の検証がなされているのか。また、600人規模になった時のそれらの検証はできているのか。	再編後の中学校1校と小学校2校では、適正規模を確保するとともに施設分離型による小中一貫教育に取り組めます。 検証はしていませんが、小中学校の教職員が日頃から連携して情報を共有したり、児童生徒の交流を促進したりして、中学一年生で起こるいわゆる中一ギャップの解消に努めます。
72	【小中同一校運営の選択もある】 再編には、農村部へき地対策として小中同一校運営の選択もある。	ご意見として承りますが、小規模の小中同一校や小中一貫校は児童生徒数に限界があり、また、特区を設定したとしても、児童生徒数の確保に課題があります。
73	一貫校とか特区による新しい教育の形態を模索できる。	
74	【教員数を十分にいかした教育を望む】 上庄中学校は、小規模校を生かし、教員と生徒が親密であるため優秀な生徒が育っている。再編後も教員数を十分にいかした教育を望む。	
5【教育ビジョン(⑤多くの教職員で支える効果的な教育の推進)】		
75	【部活動の時間などの条件は揃えてほしい】 再編後の部活動のことで。中学校1校になった場合、毎日スクールバスの生徒がいることになり。部活動の時間は一番通学に時間がかかる生徒(和泉地区になると思いますが)に合わせて開始、終了するように、教育委員会から指示し徹底することを考えられているか。住む場所によって不公平感が出てはいけないと思うので、条件は揃えてほしい。 具体的には、家庭の負担が大きすぎるため朝練はできない。終了時間は最長18時。冬季は17時。 土日の活動の送迎はどうかとなると、従来ほど充実した活動は難しいと思う。	スクールバスの時刻をクラブや部活動の終了時刻に合わせて合わせるなどして、教育活動ができるようにします。 また、地域により、スクールバス通学が40分程度かかる場合もありますが、出来る限り、通学時間が短くなるよう各地区の運行本数や下校時の便数、また、停留所の位置等について、再編推進協議会において地区の方々、保護者の方々と十分に協議を行ってまいります。
76	遠距離通学になるとクラブ活動に子供は参加できなくなるのではないか。	
77	【部活に合わせてバスを出すというのは本当に可能か】 バスの時間に合わせ部活の先生には先に帰ることで上達しないといわれ、歩いて帰宅したこともあった。バス通学による児童生徒は、部活に合わせてバスを出すといっていたが、本当に可能か。	
78	【部活のときのバスはどうするんですか】 小学校のクラブ、中学校の部活動 小学校のクラブ、私は4年生からでした。そうすると1～3年の子は先に帰ってしまう。おまけにクラブの終わる時間はバラバラ、そのときのバスはどうするんですか。クラブによっては、休日も、コンサートもあるクラブもありました。次に中学校の部活は、小学校のように時間のことはもちろんですが、クラブより大変で、時間はもっと遅くなります。そんな疲れた中で、バスで帰り、宿題、またバス通学、勉強、部活、バス。こんなんでも本当に勉強、部活に集中できますか。普通でも大変なことです。コンクール、コンテスト、大会、終わる時間全く予想が出来ないものですよ。バスの子は、つまりこの部活、クラブはダメ、ダメ、これはいい、と決められてしまうんですか。	
79	【校区を超えた活動もあるのでは】 部活動に選択肢が少ないのであれば、校区を超えてどこかに集い、この学校ならバスケ、ここならバレー、あそこでサッカーというにはどうか。その結果大会に出られない、成績が残らないことは、日々の人間関係構築、精神の鍛錬の為ならばなんら問題ないと思う。音楽・美術などの専門とする先生の数の問題は、上のような工夫で解決できると思います。	部活動は教育課程と関連した教育活動として位置づけられております。複数校で合同チームを編成することも可能ですが、学校としての誇り、一体感、意欲、移動時間、上位大会への出場など、多くの課題があります。 また、音楽、美術などの教科は、感性を育てる上でとても大切で、専門教員による指導が必要だと考えております。

80	【中学校1校では練習試合も頻繁には行えない。】 中学校1校では市内中学校間の競争が生まれず、学校を背負った闘争心が芽生えにくくなる。部活動においては、ある程度の人数は必要だと考えるが、部員数が多いことによって試合に出られなくなる生徒が増え、やる気につながらなくなると思う。2校であれば市内で練習試合も頻繁に行うこともできるが、市外の中学校とでは練習試合も頻繁には行えない。 吹奏楽部のような大勢の生徒が必要な部活については、2校で1つの部とし、スクールバスを活用して放課後の練習に生徒を移動させれば済むのではないか。	現在、既に市外の学校と交流を行っております。 再編後もスクールバスの活用により、市外の中学校と練習試合や合同練習を行ってまいりたいと考えております。
81	【部活動は学校統廃合とは切り離して考えるべき】 部活動に関しては、課外活動が学校の部活動に矮小化されているが、社会教育活動として地域で公的に十分保障されるべき問題であり、学校統廃合とは切り離して考えるべきだと思いますが、どう考えるか。 文科省においても同様の意見がなされているので、地域や学校の実態に応じ、地域の人々の協力、社会教育施設や社会教育関係団体等の各種団体との連携などの運営上の工夫を行うように、教育委員会の早急な対応を求めます。	部活動は教育課程と関連した教育活動として位置づけられており、社会教育活動とは別であると考えております。 再編することで、複数の部活動を設置することが出来ます。子ども達の選択幅が広がり、外部指導者の確保など各種競技団体や地域の方々の協力を得て充実を図ってまいります。
82	【大野という土地を生かした部活動の設定を望む】 クラブ活動や部活動では、選択の中を広げるということだが、大野という土地を生かした部活動を設定するのか。例えば、山岳部、自転車部、スキー部など考えられるものは全て設定するのか。音楽に関する部活を設定するにしても1つだけではなく、吹奏楽、軽音楽部、JAZZ、雅楽などのように幅を広げられるのか。以上質問だが、上に書いた事を望みます。	学校再編をすることにより、クラブ活動や部活動の選択幅が広がりますので、ご提案いただきましたことも、参考にさせていただきます。
5【教育ビジョン(⑦安心・安全な通学の確保)】		
83	【学校建設所在地、バス停留所、運行経路、所要時間、バスの台数が示されていない】 スクールバスで安全な通学を確保することについて具体的な内容は全く未知である。毎日のことであるから極めて重要であるにもかかわらず、学校建設所在地、バス停留所、運行経路、所要時間、バスの台数も全く示さずに計画を理解しろとは全くもってずさんです。未恐ろしい説明会です。 人数の多い児童生徒の生命の安全についても懸念されます。学校に一人の養護教諭では足りず、万一、災害が起きた時、地域から離れて3箇所に集めた児童生徒の安全を同時に守りきれません。マニュアルを作り訓練をしてさえ、実際の時には想定外ばかりということは東日本大震災で証明済みです。せめて小学校時代はできるだけ地域の近くに学校を置き、まさかの時は地域の協力を得るべきです。そして、保護者等に安心して働いていただきたいと思えます。	スクールバスの運行方法等につきましては、平成29年度の小中学校整備基本構想において学校の建設地が決まり次第、再編推進協議会において、地区住民、保護者の方々と十分に協議してまいります。 スクールバスの運行に当たっては、文部科学省の、「公立小学校・中学校の適正規模・適正配置等に関する手引」によりますと通学時間は「おおむね1時間以内」を目安とされておりますが、運行経路などを工夫して乗車時間の短縮に努めます。(8頁及び資料8に反映) その際、児童生徒の負担にならないよう、特に低学年の児童への配慮に努めてまいります。 また、スクールバスにつきましては、保護者負担は考えておりません。
84	【スクールバスの運行について具体的に示してほしい】 小学校の1年生と6年生では帰宅時間が大きく変わるが、帰りのスクールバスの運行について具体的に示してほしい。	
85	【どのように送迎するのか、その具体的な案をお示しいただけませんか。】 学校再編による通学について不安と分からないことがあります。スクールバスは何台くらいを想定しているか。(小2校中1校)学校の立地にもよりますが、スクールバスの台数を減らそうと思うと、学校を市街地に作る必要があります。市街地に良い土地がありますか。小を陽明、開成跡地とも思いましたが、狭すぎます。バスの台数や停留所、学校のどこに停めるのかなど心配です。その部分が解決しないと委員会案には賛成しかねます。 例えば、富田、阪谷地区に児童90人、生徒60人いますが、どのように送迎するのか、その具体的な案をお示しいただけませんか。停留所を回るのか、数箇所に集めてなのか、それで40分以内に登校できるのか。また、特別支援学級の児童で親が歩いて登校に付き添っている場合、バスで送迎し、登校後保護者を家まで送るのか。	
86	遠距離通学が全校区で発生する。	
87	【スクールバスは本当に安全?】 スクールバスはもちろん和泉村や六呂師や森目は絶対的になってしまいますよね。その時、九頭竜ダム周辺、山道を毎日のように通学するのは本当に安全ですか。休日に通ったりしますが、普通でも恐ろしく感じます。そしてもし、乗り遅れたりした時、どうするおつもりですか。子どもは敏感で車酔いを持っている子もいると思いますが、その子はどうするおつもりですか。毎日、その苦痛を9年以上味わわせるんですか。雪のときはもっと早い時間で、しかも危ないと思えます。	
88	【バスでは自然や地域の人達との触れ合いがなくなるため、徒歩圏内の学校存続が望ましい】 スクールバス通学になると自然や地域の人達との触れ合いが損なわれ情緒豊かで忍耐力のある子供が育たない。 スクールバス通学となると小学生の場合、徒歩通学で自然とふれあうことが出来なくなる。 徒歩圏内の学校存続が望ましいことから小学校の統合は必要ありません。	
89	【30分以内の通学時間をどのように確保するのか】 スクールバスの運行は再編が決まってからの検討事項となっているが、それぞれの地域から30分以内の通学時間を保証するのか。どのように確保していくのか。	
90	【「おおむね1時間以内」の要件が守られるのか】 山間部を含む地域で「おおむね1時間以内」の要件が守られるのか疑問である。特に、冬期に山間部から通学する生徒に関しては、最低1時間以上、交通事情によっては1時間30分～2時間以上になることも予測され、豪雪等で道路事情が悪ければ登校ができない可能性もある。この点について全く触れられていない。	
91	【家を出てから学校着までにかかる時間を検証してみたい】 今回の再編について和泉地区の立場から意見を述べる。 中部縦貫自動車道によって一定区間の時間は短縮されるが、遠距離は変わらない。通学に1時間以上はかかる。家を出てから学校着までを検証してみたい。小学生の通学に対するストレスは、心身の健康に害がある。責任は誰にいくのか。	
92	【1年生の子に強いるのは、大きな負担と考えます】 大人でさえ30分～40分の通勤は負担があります。それを1年生の子に強いるのは、大きな負担と考えます。スクールバスに乗れない地域で1時間以上歩く地域が出てくるのではと心配です。「安全・安心、いこいの時間」の言葉を本当に有と考えて使っているのでしょうか。特に和泉は事故も心配です。安心、安全の根拠を示していません。	
93	【30分以上歩いて通う児童生徒、保護者にも大きな負担をかける】 スクールバスや自転車通学、30分以上歩いて通う児童生徒、保護者にも大きな負担をかける。	
94	【どのように支度して登校しているか知ってますか】 子どもがどのように支度して登校しているか、帰宅してからどのように過ごしているか知っていますか。小学校低学年は、特に支度に1時間はかかります。バスの中で時間の活用?きつと寝てしまいますよ。バスで寝た子は家で寝られないでしょうね。子どもの生活リズム守れますか。無理です。	
95	【具合が悪くなったらどうするのでしょうか】 スクールバスの運行について、歩行で登校するメリットは、近所の人たちと会ったり、通学路の危険なところや逆に楽しいところが分かったり、季節を感じる事が出来る事、雨の日や雪の日の大変さ、晴れた日の気持ちよさや暑さを体験することによって忍耐力や自然の良さ、恐ろしさが分かることにあると思えます。スクールバスを使うのもやむを得ないにしろ、もし、インフルエンザなどの集団発生源になったらどうでしょう。具合が悪くなったから、保護者のお迎えという場合があると考えられますが、父母は仕事をしていて祖父母がお迎え可能な距離ならいいですが、そうでなければ保健室で待機して、健康者と一緒のバスで移動するのでしょうか。部活の移動にもスクールバス対応とおっしゃっていましたが、そんな時こそ徒歩で移動すればいいのではないのでしょうか。	
96	【遠いところの学校へ行くのは、不安です。忘れ物しても取りにいけません。】 歩いていけないくらい遠いところの学校へ行くのは、不安です。忘れ物しても取りにいけません。歩いて行ける学校があってほしいです。 登下校に時間がかかると自由な時間がなくなるのでいやです。	
97	【時間、忘れ物、他への迷惑の心配が増えて、親のストレスが確実に増す。】 家庭で過ごす時間の充実をもっと考えていただきたい。スクールバスが通るようになると時間に間に合わせる、忘れ物、他への迷惑の心配が増えて、親のストレスが確実に増します。	
98	【低学年と高学年の児童の体力の違いを考慮】 小学校低学年～中学年の心身とも発達期にある子どもたちにバス通学を強いるメリットがあるのか。手引でも低学年と高学年の児童の体力の違いを考慮するよう指摘しているが、この点も再編計画案では触れられていない。	
99	【スクールバスの中での精神的な負担は大きいです】 スクールバスにかかる時間、距離もさることながら、スクールバスの中での精神的な負担は大きいです。学校へ行く前に疲れ、学校へ行かなければならないプレッシャーや親の負担が子どもに与える影響とかが大きなストレスとなります。これが子ども達の毎日となるとこの生活には支障が生じます。スクールバス通学は、地域でのお互いの挨拶も充分できず、大人たちからの愛情深い支援も得られず、歩かないことで体力もつかず、自然の空気も吸えず、発達段階に応じた適切な教育環境とは言えません。せめて、小学校時代は無理なスクールバス通学はできるだけ止めるべきです。	
100	【スクールバスにかかる費用】 スクールバスにかかる費用も明記せずに全く市民の不安に答えていません。	
101	【スクールバスの費用はどうか】 10～15台ものスクールバスの費用については全額市が負担すべきものであると考えるが、市が完全に無料にできないのであれば、親の金銭的負担も増加することが予測される。この点についてどう考えるのか。	

102	【バスに語りべや英語の講師的な人材を配置するのでしょうか？】 通学時間にふるさと語りや英語に親しむ遊びなどを取り入れるとありますが、それぞれのバスに語りべや英語の講師的な人材を配置するのでしょうか？ボランティアに頼るのですか。乗車時間も個々に違っているのに共有出来るのか疑問です。具体的に可能かわからないことを安易に書いているように思います。	遠距離のスクールバス通学において、ふるさと語りやゲーム、ビデオなどを取り入れながら、通学時間を児童生徒のふれあい、いこいの時間として活用する工夫を行い、ボランティア等のスタッフの配置を検討してまいりたいと考えております。 地域の方々にもご支援をいただきたいと考えております。
103	【スクールバスの中、ボランティアや専用の職員を置くなど対策は考えられているか。】 スクールバスの中でのことです。 スクールバスという狭い大人の目が届かない空間で子どもたちが過すと、様々な問題が起こることがある。実際、「お菓子を食べる」「ゲーム機や音楽プレーヤー、スマホを持ち込む。」「いじめにつながるような行為をする」といったことが起こった。もし何台もスクールバスが走るようになると同様の問題が多発すると考えられる。ボランティアや専用の職員を置くなど対策は考えられているか。	
104	【バス通学中の児童・生徒の安全を担う役割は誰が行うのか】 「ふるさと語り」「英語に親しむ遊び」に関しては、誰が指導役等を担うのか。指導役としてはもちろん、バス通学中の児童・生徒の安全を担う役割(事故や体調不良時の対応など)も考えれば、その職責上ボランティア等で賄うことは不適切であり、人件費負担も発生すると考える。この点をどう考えるのか。	
5【教育ビジョン(⑦その他;いじめ等への対応対策等)】		
105	【小学校が2校になると、イジメや不登校、校内暴力などを防止できない。】 【意見】10校を2校にした場合の弊害として考えられること ①ともに500名超のマンモス校となり先生の目が行き届かなくなりイジメや不登校、校内暴力などを防止できない。	学校規模が大きいからいじめが発生し、小さいからいじめが発生しないとは言いきれずと考えております。1学年に複数の学級ができれば、複数の教職員で一体的に指導を行うことができます。また、教育支援員や教育相談員を継続して配置することで、子ども達一人一人に目が届きやすくなると考えております。
106	【中学校1校になると、いじめ、不登校、校内暴力など安定した教育環境が損なわれる。】 【意見】再編後中学校1校の弊害として ①1極集中で生徒数のマンモスが生き能力格差と競争激化により、いじめ、不登校、校内暴力が顕在化することで安定した教育環境が損なわれる。	現在、教育委員会では、いじめ防止基本方針を策定し、メールによる相談受付やネットパトロールを実施していじめ防止に積極的に取り組んでおります。 再編後も、更に充実、強化してまいります。
107	【いじめが減っていない現状を到底踏まえているとは思えない】 いじめ対策についても具体策はなにも上がっておらず、いじめが減っていない現状を到底踏まえているとは思えない。まして、学校側が認識できていないいじめも他にもあるわけですので。ベビーブームや団塊の世代の学校時代の数が多く、目が行き届かずに荒れた状況を踏まえていないのではないのか。	
108	【いじめなど、教育環境の困難が増大する。】 財政効率優先で大規模化することの教育的な問題や不安も大きい。発達段階に見合った少人数教育が求められる。「小1ギャップ」「小1の壁」「中1ギャップ」など現在でも学習についていけるか(「落ちこぼし」)問題行動(仲間はずれ・人間関係づくりの困難・コミュニケーション能力発達の幼さ・発達障害など気がかりな子のインクルーシブ教育・いじめ・不登校など)に対応していけるか指摘されているが、さらに教育環境の困難が増大する。	円滑な再編に向け、再編前から児童生徒、保護者、教職員などの交流に取り組みます。 再編後も、一人一人に寄り添った学びの支援ができるように、複数の教職員の目できめ細かく指導したり、習熟度別による小集団学習を取り入れたりと、指導の充実を図ります。 また、個別の合理的な配慮などをしながら、すべての児童生徒が分け隔てなく学ぶインクルーシブ教育を進めます。(7頁(2)に反映しました。)
109	【「特に支援が必要な子ども」に関する記述はない】 今再編計画案では「特に支援が必要な子ども」に関する記述はないが、再編計画案からそうした目配りが必要なのであり、そうした目配りに欠く計画では親・子ども・地域住民およびコミュニティの理解は得られないと考える。	
110	【環境が大きく変わることによってストレスを感じることに予防方法はどのように考えているか。】 これまでの学校の仲間、そして先生との信頼関係など環境が大きく変わることによってストレスを感じ学校生活に馴染んでしまう恐れのある子がいると予想されるが、予防方法はどのように考えているか。	中学校においては、再編時における教職員や県のスクールカウンセラー(臨床心理士)、市が設置する教育相談員を継続して配置し、きめの細かい教育相談体制を構築してまいります。
5【教育ビジョン(⑧その他)】		
111	【田舎・不便という特徴を誇りを持って打ち出すべきだと思う。】 先生も専門でないなりに、遠いなりに、便利を与えるより、あえて不便から学べることもあるのでは。大野らしく、大野でしかできない教育環境は、田舎・不便という特徴を誇りを持って打ち出すべきだと思う。	ご意見を参考にしながら、市外からも注目され、大野で学びたいと思われるような魅力ある学校づくりに努めてまいります。
112	【新たな移住者を募るといった点については検討しているのか。】 少人数学級の実践で、都市の学校になじめない子どもを受け入れたり、教育効果を検証し優位であれば、それを売りこして新たな移住者を募るといった点については検討しているのか。	
113	【小規模校を一部残し、遠隔授業やサテライト授業、出張授業など、新しいアイデアも出したらどうか。】 小規模校を潰すだけではなく、小規模校を一部残し小改修を行い、遠隔授業やサテライト授業、出張授業を行うなど、新しいアイデアも出したらどうか。今の計画は、血が通ってなく、全く本気を感じない。遠方からこの地域の学校なら入りたいと思う学校計画には全くない。	
114	【大野ならではの教育の形を探してはどうか】 お年寄りや触れ合う、田舎らしい、大野ならではの教育の形を探してみてもはどうでしょう。	
6【再編時期】		
115	【統廃合はもっと緩やかなスピードで慎重に行うべきです】 もともと教育とは時間のかかるものなので、統廃合はもっと緩やかなスピードで慎重に行うべきです。	学校再編には、平成16年から取り組んでいます。 平成25年6月から平成26年5月にかけて、各地区区長会や保護者の皆様を対象に「少子化の現状と再編の必要性について」の説明会を30回行いました。
116	【少子化のスピードにゆっくり合わせることが一番重要だと思う】 再編計画があまりに性急なため、実際に、「将来は大野に戻って、自分の育った学校・地域に自分の子供を通わせよう」と思っていたが大野に帰ることをやめようと思った方がいるということが過疎化・少子化対策で一番怖いことです。 徐々に少子化になるのは仕方ないと思うが、そのスピードにゆっくり合わせることが一番重要だと思う。 2段階の再編は、保護者・児童生徒に負担がかかると思うが、急激な変化こそが、人々の心に過剰でマイナスな心理を与える大きな副作用をもたらすと考える。	平成26年11月には、学校教育審議会からの学校再編に関する中間報告を受けて、平成27年2月に小中学校再編計画(素案)を作成し、40回の実証会を開催しました。その説明会でのご意見やご要望を学校教育審議会に報告し、これらを踏まえた最終答申を受けて、教育委員会で充分検討を重ねた後、総合教育会議を経て、平成28年8月に再編計画案を作成しております。 この再編計画案の地区別説明会を10回、将来、直接再編に係る子どもを持つ保護者に対して、10回の合計20回、説明会を開催するとともに、パブリックコメントを実施しました。
117	【中部縦貫道の完成は、再編計画に織り込むべきものではない】 中部縦貫道の完成は今後の政治情勢・国の財政事情等で遅延・中止等もありうる話である。現時点で完成はあくまで未確定の話であり、再編計画に織り込むべきものではない。	このように、3年半前から「少子化の現状と再編の必要性」、「学校再編計画(素案)」、「学校再編計画(案)」と段階を踏んで、丁寧に説明してまいりました。 平成34年度中部縦貫自動車道の完成につきましては、強く要望しているところであり、予定通り完成するものとお聞きしています。
7【新築】		
118	【中学校はプールを造らない訳は何ですか。】 中学校はプールを造らない訳は何ですか。小学校のプール学習を言ってしまうと遊びのようなものです。でもそれでいざという時自身の身を守れますか。正直に言って、無理です。私の時は1日行っただけで、高校に上がり、ぜんぜん泳げなく、友人もほぼ泳ぎ方が分からなくなっていました。意外とプール学習は大事なことじゃないのですか。海やプールに行った時、もしもがあった時、中学でやっていたかった。小学校以来で忘れてしまった人が意外と多いと思います。	小中学校の学習指導要領では、学習内容として水泳を取り上げておりますが、必修とはなっておりません。学校にプールを設置しなければならない規定もございません。 現在、中学校においては、B&Gのプールを使用して、水泳学習を行っております。
119	【どのような校舎を考えているのか】 素案を地域で説明し、地域で出された質問や要望について一つ一つ答えずに、中学校1校、小学校2校、新築の唐突な案に驚いています。この案には反対ですが、夢見るような環境にするために新築とありますが、どのような校舎を考えておられるのか。	再編計画案の学校教育ビジョンに書いてある通りでございます。 校舎の整備につきましては、平成29年度において、小中学校整備基本構想の中で協議していくこととしております。
120	【耐震化工事が済んだと市報で見た】 新築にしなくても建替える必要が出てきた時に建て替えばいい。大野市は耐震化工事が済んだと市報で見た。	市内の鉄筋コンクリート造りの小中学校の耐震補強工事はすべて終了しております。 耐震補強工事は、地震等の自然災害で建物が瞬時に倒壊することを防ぐための工事で建物の寿命を延ばすものではありません。
121	校舎の耐震をまず考えて欲しい。	
122	【耐用寿命は65年以上ある】 鉄筋コンクリートの建築物の耐用寿命は65年以上ある。もう少し、専門家の意見並びに助言を受けるべきでないか。	文部科学省の「学校施設の長寿命化改修の手引」には、築45年を過ぎた建物は長寿命化改修に適さないとされております。 また、新築工事も長寿命化工事も、費用対効果はほぼ同じだと考えております。 再編後の旧校舎等の利活用については、再編推進協議会において協議してまいります。 再編後も、それぞれの学校や地域に応じた特色ある教育を出来る限り引き継いでまいります。
123	【まだまだ丁寧に使用することができます】 文科省によれば、新築経費の約6割で30年程度の長寿命化改修ができるということです。大野市に現存する小中学校は耐震工事もすべて行われていて、少なくなる児童生徒数を考慮して統合しながら、地道な長寿命化改修により、まだまだ丁寧に使用することができます。平成63年には、有終西小学校が建築後45年を迎える例まで図解していますが、これは全く新築を目的とするための理由にしかみえません。歴史ある校舎をもっと丁寧に活用すべきです。それこそが学校教育の手本でもあります。 各々の学校には歴史、長い時間をかけられ育われてきた立地条件、校訓や校風などがあります。それを一挙に崩壊してしまふような学校ができるのだからかとも懸念されます。 また、廃校になって野放しの校舎を想像するのも恐ろしいです。いつの間にか目的不審な使い方が市内外から起きないかと心配です。地元の学校はどうするかを地元の人たちと共に考えてゆくべきです。それこそ自分たちが助け合って生き抜くという結の体験が必要です。 まさに結の精神でそれぞれの学校や地域に応じた特色ある教育を出来る限り引き継ぎながら統合を重ねて、残された校舎への愛着、感謝を踏まえた対応を済ませながら一人一人の児童生徒や家族を取りこぼさなく再編を進めていくべきです。	
124	和泉小中学校の校舎は耐用年数がまだまだある。	耐用年数がまだありますので、再編後の旧校舎等の利活用については、再編推進協議会において協議してまいります。

125	<p>【学校教育審議会でなぜ耐用年数について協議・検討しなかったのか】 今年2月の教育総合会議議事録『学校教育審議会の答申は、施設の耐用年数抜きでまとめられた答申なので、最終的には校舎等の耐用年数などを考慮して、施設の安全性を確認しながら決めていかなければならない』 学校教育審議会に諮問した平成26年から最終答申の今年1月迄の1年半、また、平成16年度からの再編にかかる協議の中で、なぜ“施設の安全性”という重要な項目を加味して協議、検討しなかったのか。また、審議会に依頼しなかったのか。10年以上も議論の時間を費やし、今頃になって“耐用年数などを考慮して”という言葉がでるとするのは、これまで危機管理意識がなかったということか疑問に感じる。</p>	<p>文部科学省の「学校施設の長寿命化改修の手引き」には、「長寿命化改修の適切なタイミングは45年程度」また、「劣化状態が重度になりますと補修・改修にかかる工事費は、急激に増加してしまい、長寿命化改修自体が経済的に成り立たなくなってしまう可能性もあります。」とされており、再編計画案の作成に合わせ、改めて耐用年数について検討させていただきました。</p>
<p>8【経費】</p>		
126	<p>【なぜ、もっと市の予算を取れないのか？】 説明会では、経費等の話もありましたが、親の立場から言えば、「なぜ、もっと市の予算を取れないのか？」「ほかに削るべき市の予算がないのか」という風にさえ思えます。</p>	<p>教育予算につきましては、厳しい財政状況の中で、かなりの予算が手当てされていると認識しております。 本市の将来を担う児童生徒の教育環境の充実を最優先に、長期的な視点に立って、適正に執行してまいります。</p>
127	<p>【教育にお金をかけないというのは】 教育にお金をかけないというのは、大野の将来がないということです。子どもが戻ってこないとおしまいです。</p>	
128	<p>【国からの補助金をもらうことが最優先の目的になっているのではないのか】 「学校が地域や保護者の皆様に支えられてきた歴史的経緯を十分に考慮しながらも、小規模化が進行している現状に鑑み、本市の将来を担う児童生徒の教育環境の充実を最優先課題と位置づけ」と記載があるが、実際は、産業の衰退や人口減少での税収の減少から大野市の将来的な財政が厳しく現在の小中学校維持は厳しいので、国からの補助金をもらうことが最優先の目的になって学校再編を進めているのではないのか。 補助金の対象になるように再編計画を進め、児童生徒のことを最優先に考えた教育環境の充実については優先順位が低い計画になっているのではないのか。 説明会での「人間力を育てる」という説明も、後付けの説明に聞こえる。人間力を育てるための具体的な計画が、後付けの説明で、長期的な計画から話がなされています。 本当に、予算が厳しいのなら、それを前面に出して議論するべきではないか。再編して大きくなり、新築になるだけでは、いじめも増え、地域とのつながりも失われ、次の世代の若者がこの学校に入りたと思うような学校にはならないと思う。</p>	<p>子ども達の教育を第一義に考え、これまで大切にされてきた結の心や進取の気象とこれからの社会を力強く生き抜く力を育てるためにお示した再編計画案です。良い学びの環境を提供し、教育理念にあります「優しく、賢く、たくましい大野人」を育てることに努めてまいります。 財源手当てとしましては、各種補助金の確保、基金の積み立て、有利な地方債の借入れなど、財政面への負担が極力少なくなるよう検討してまいります。 また、学校建設にあたっては、できるだけ地元企業への発注を心がけていきたいと考えております。</p>
129	<p>【「ふるさと納税」やクラウドファンディングの活用もあるのでは】 たしかに、現状維持と再編では事業費が半分以下である。しかし、経過年数(耐用年数)の文科省手引きが出されたとはいえ、いずれは改築新築しなければいけないことは予想できたはずである。 新增設するならば、予想外にかかることになるが、現状維持することは想定内の経費であり、当然必要不可欠な事業費である。そのために、減価償却をするというのが普通の考え方である。児童・生徒数が減少するからといって通常事業費を削るというのは財政計画・政策の問題であって、教育環境のためというのとは、根本的に問題がすり替えられている。 どの市町でも検討されている問題であるが、勝山でもいったん統廃合しようと提案されたが撤回されている。万一財政的に「万策尽きた」と(とはとうてい思えないが)最後の手段として教育予算・学校統廃合に手を付けざるをえないとしても、母校存続応援型の「ふるさと納税」を活用するとかクラウドファンディング(白馬高校が実践)で残すとか方法があるはず。地元業者に建築の仕事が発注できれば、地域経済への貢献も大きいと考える。</p>	
130	<p>【長寿命化改修をしながら経費を抑えることができます。借金を増やすことは止めてください。】 「現状のままで校舎を建て替えた場合」とは、現在あるすべての学校を一旦解体してその場所に新築し直すと229億円かかるかと試算し、更地に新校舎を3校建てれば105億円で済むという比較だけを示して「これなら半分の経費で済みます」という聞こえのよい言葉にしています。「現状のままで15校を解体、新築したい」と言う声は市民の中にありません。現在ある学校を新築の6割の経費で長寿命化改修をしながら学校を統合して、必要が出てきた学校についてのみ新築していけば、もっと財政的に適切な比較、検討を進めるべきです。 また、新築によって大野市の借金がますます増えます。厳しい時代に向け借金を増やすことは止めてください。新築にして最も素晴らしい教育環境を準備すると言われますが、人間の問題はお金で解決すべきものではないし解決されるべきものでもないと考えます。</p>	<p>文部科学省の手引きには、築45年を過ぎた建物は長寿命化改修に適さないとされており。また、新築工事も長寿命化工事も、費用対効果はほぼ同じだと考えております。 国や県などの各種補助金の確保、基金の積立て、有利な地方債の借入れなど、財政面への負担が極力少なくなるよう努め、将来の子ども達への負担を少なくします。 (12頁に反映)</p>
131	<p>学校の建設費で市民税の増額があるのか。</p>	<p>学校にかかる経費の増減で市民税が高くなったり安くなったりすることはございません。</p>
132	<p>【莫大なお金がかかると、市民税が高くなり、若者は市を見捨てて市外に行きます。】 学校を全部新築するとなると約105億円の経費が必要ですが、グラウンドの整備費などその他の費用など含まれていません。廃校になった場合の解体経費など含むと莫大なお金がかかり、今後市民は市民税が高くなり、若者は市を見捨てて市外に行きます。そうなれば、大野市の財政は赤字になり、資産価値が下がり大変なことになります。北海道の夕張市みたいになりそうです。</p>	
133	<p>【現状維持で年間に市が負担する費用、再編後のスクールバス費用等の試算は全て算出下さい】 現状存続(15校)229億円、再編(3校)105億円となっている。 時間軸が分からない。10年後の時点で新築を建てた時に105億円、その時点で15校を維持するのに229億円かかっているのか。 15校現状維持で年間に市が負担する費用、3校になった場合の小中学生をスクールバス費用等の試算は全て算出下さい。 今回の計画案の資料のみでは、金銭的なメリットについての判断は出来ません。不十分です。子供達に残る借金なので確認できる内容でしっかり提示下さい。</p>	<p>再編計画案に記載されております現状のままで校舎の建て替えにかかる経費とは、それぞれの学校が耐用年数に達したときに建設する場合の経費です。解体経費を除いて、修正いたしました。(13頁に反映) 現時点で出せる経費は、再編計画案にお示しいたしました。 なお、教職員の人件費と施設管繕工事を除いた平成27年度の小中学校15校の学校管理運営経費、維持補修経費、スクールバス運行経費、学校給食運営経費の合計は、5億1700万円となっております。(資料6に反映)</p>
134	<p>【現状のままの維持費やコスト、計画試算も事前に開示しなければならない】 廃校しないで現状のままにしておけば維持費やコストがかかる為、これらの計画試算も事前に開示しなければならない。</p>	
135	<p>【もっといろいろな視点から数値的情報を公にすべきだと思う】 数値的裏付けが非常に雑で、もっといろいろな視点から数値的情報を公にすべきだと思う。 たとえばもっと早い時期から長寿命化改修を施した場合の試算、その他既存の学校の修繕費用、借地代金などのランニングコストなどをもっと明確にする必要がある。期限を先延ばししたくない理由の説明も不十分で、住民との意見交換がさらに必要だと思う。計画ありきでなく、自由に将来の大野を見据え、教育環境から派生する大野のあり方を今一度考える機会を設けるべきであると提言します。</p>	<p>経費につきましては、平成27年度の小中学校15校の学校管理運営経費、維持補修経費、スクールバス運行経費、学校給食運営経費の合計は、5億1700万円となっております。 学校再編には、平成16年から取り組んでおります。平成25年度より3年半かけて「少子化の現状と再編の必要性」、「学校再編計画(素案)」、「学校再編計画(案)」と段階を踏んで、慎重に、丁寧に説明してまいりました。</p>
136	<p>【コスト、経緯を明らかにしたうえで計画(案)を進めて欲しい。】 再編にかかるコスト、経緯、非公開の部分を住民に説明し、明らかにしたうえで計画(案)を進めて欲しい。</p>	<p>情報公開の非公開の部分につきましては、教育委員会として公開しないことといたしました。</p>
137	<p>【予算が議会上に上程されるのはいつか。】 今後、平成29年1月に小中学校再編計画が策定・公表され、平成29年度小中学校再編整備基本構想策定と進んだ場合、直近で学校再編関係の予算が議会上に上程されるのはいつか。</p>	<p>学校再編には、平成16年から取り組んでいます。平成25年度より3年半かけて「少子化の現状と再編の必要性」、「学校再編計画(素案)」、「学校再編計画(案)」と段階を踏んで、慎重に、丁寧に説明してまいりました。</p>
138	<p>【関連予算について、議会での承認を得られない場合どうするのか】 最新のアンケート結果では賛成と考える方は少数であった事を踏まえ、もし、平成29年1月には小中学校再編計画の策定・公表、平成29年度小中学校再編整備基本構想策定と進んだ場合、関連予算について、議会での承認を得られない場合どうするのか。 またその議会で、「議員から関係予算の減額修正案提出」→「可決」→「市長が減額修正議決に異議」→「市長が再度審議と議決を求める」→「出席議員の3分の2以上が減額修正案に同意」になった場合はどうなるのか教えてください。</p>	<p>学校再編計画が策定され次第、速やかに小中学校整備基本構想策定にかかる経費を市議会に提出したいと考えております。 なお、市議会のことにつきましては、お答えできる立場にございません。</p>
139	<p>【なぜ、全校改修と再編の2パターンしかないのか】 なぜ、全校を改修存続の例と、小学校2校と中学校1校の例の2パターンしかないのか。</p>	<p>これまで、望ましい学校の規模と校数を検討してきましたが、進行する児童生徒数の減少に鑑みますと、本再編計画案が最良と判断いたしました。</p>
<p>9【建設候補地】</p>		
140	<p>【どこに建てるのか明確に】 また、どこに建てるのか明確にせずに、このような再編計画を出すのは不安を大きくするものです。</p>	<p>平成29年度に策定する小中学校整備基本構想の中で、建設候補地を決定いたします。子ども達の通学上の負担も考慮し、慎重に決定してまいります。</p>
141	<p>【建てる場所をはっきりさせて】 建てる場所をはっきりさせてから、説明会をして下さい。</p>	
142	<p>【場所の候補を挙げて、議論すべき】 小学校2校、中学校1校を新築とのことですが、候補地はどこか。既存校の敷地内ということもあるのか。土地の「あて」があるのか。 人口重心や利便性から、市街中心部にたてるのが理想だと思うが、現在市街地には大きな敷地はないため、郊外に立てることになるのではないのか。その場合、地域の偏りが生じる。市の重要施設はすべて市街部南部に集中しているが、都市計画でそちらに集めていく計画があるのか。 校数と、場所の候補は限りがあるので、それをいくつか挙げた計画をだし、その上で議論すべきだと思う。</p>	
143	<p>【立地場所を六呂師や阪谷などの山のほうにして欲しい】 小学校又は中学校の立地場所を六呂師や阪谷などの山のほうにして欲しい。なぜなら、自然の中で勉強やいろいろな体験ができる。過疎地に子どもが存在は地域に活気が出る。学校があることで若い世代も学校の近くに住んだり過疎地に若いお嫁さんが来たりして過疎の歯止めになる。</p>	
144	<p>【学校は六呂師の山や和泉地区、上庄に設置するべきではないか】 再編新築される学校は六呂師の山や和泉地区、上庄に設置するべきではないか。学校そのものが郊外にできれば家が増え商店も集まり活気が出るのでは。市街地は観光が発展して人は増える。森の中の学校。自然と隣り合わせの学校。市外から生徒を獲得すらできるのではないのか。</p>	
145	<p>【小学校を下庄地区と上庄地区の二つの地域に持つてくる】 小学校を下庄地区と上庄地区の二つの地域に持つてくるのが、地域にとっても子ども達にとってもベターな選択ではないか。</p>	
<p>10【跡地活用】</p>		

146	【残った学校の対応は】 どこに建設するのか。残った学校の対応は。他の編成方法(例えば、大野高校に入るとか)めいりんの活用方法など並行して議論して欲しい。	建設候補地は平成29年度に小中学校整備基本構想の中で決定してまいります。 再編後に残った学校施設は具体的な活用方針は定まっておりません。今後、耐用年数などを考慮しながら、地域の方々のご要望も含めて方向性を検討していきたいと考えております。
147	【防災拠点機能は失われてしまうのではないかな】 和泉中学校(平成17年築)、有終西小学校(平成18年築)、和泉小学校(平成17年築)、富田小学校(平成15年築)と築年数も浅く、今後も耐震性も十分である。 小学校や中学校は、防災・災害拠点でもあり、災害時の教少ない避難所機能や、炊事機能でもある。小学校2校、中学校1校にすると防災拠点機能は失われてしまうのではないかな。特に、市街部以外の地域では大規模に収容できる避難所がなくなってしまうのではないかな？	再編後の旧校舎等の利活用については、防災拠点も含めて、再編推進協議会において協議してまいります。
148	【統廃合は、地域のスポーツ・文化・産業・まちづくりの拠点など公的役割の放棄・縮小・切り捨てである。】 さらに、学校は全県各地域の教育はもとより地域のスポーツ・文化・産業・まちづくりの拠点でもある。これまで行われてきたきめ細かい教育の機会と条件整備によって学力・体力・競技力向上・後継者育成の裾野を広げてきた役割は大きい。とりわけ震災などにおいて安全・安心と復興のよりどころとしての学校が果たす役割が大きいことがいっそう明らかになっている。にもかかわらず統廃合をすることはこうした公的役割の放棄・縮小・切り捨てである。	
149	【現有施設の利活用検討】 子供の減少や市の財政を考えれば、「小中学校再編」というのは『当然やるべきこと』とも考えられ、様々な面で現状よりもプラスになるように市民にも示していく必要がある。 そのため小中学校再編後の現有施設の利活用検討という観点が必要だと考え、再編された後の小学校、中学校の施設をどうするのか。教育・福祉・防災など、地域社会にとって必要な施設として活用できるよう、小中学校再編と並行して議論する必要がある。例えば、農業体験ができる野外学習施設、民間委託による高齢者福祉施設、非常時の防災施設など、他地域の事例などを参考にしながら、施設の利活用を検討してほしい。今回の小中学校再編をきっかけに、市民が誇りを持ち、大野市に留まれる環境となることを期待している。	
150	・地域コミュニティーや防災の拠点 地域住民にとって最も身近で生涯にわたる学習・文化・スポーツなどの活用の場として利用される。地域の防災拠点としても重要な役割がある。 市内の学校はすべて耐震化が済んでいるという説明であったがこれを廃校し改築する事は税金の無駄遣いである。(105億円投入)	
11【人口減少問題】		
151	【児童生徒数は、大野市総合計画に準じた数字で示して下さい】 平成37年以降の予想児童生徒数に、国立社会保障・人口問題研究所のデータを使っています。都市部でも地方でも今後少子化は進みます。ただし、これからの日本における地方あるいは世界における日本の将来像には多様な可能性があります。したがって、大野における人口推移がどのようになるかについては、これからの大野のあり方次第です。平成40年に児童生徒数は、31%減あるいは36%減になると決めつけないで、せめて大野における予想として、大野市総合計画に準じた数字で示して下さい。	人口ビジョンの人口は、目標人口であり、その人口を目指して「大野へ帰ろう」事業や奨学金事業など全庁挙げて取り組んでいるところであります。 再編計画におきましては、現段階で推計される現実的な数値として、国立社会保障・人口問題研究所の数値を利用しております。
152	【再編は、限界集落に向かって拍車がかかる】 地域に学校がなくなると、活力が無くなりそれこそ限界集落に向かって拍車がかかる。 大人数ばかりでなく、少人数校でも充分学校教育は可能ではないでしょうか。 再編計画(素案)か(計画(案))への大幅な変更での経過説明が少なく、急ぎ過ぎの感が有る。	学校再編には、平成16年から取り組んでいます。3年半前から「少子化の現状と再編の必要性」、「学校再編計画(素案)」、「学校再編計画(案)」と段階を踏んで、慎重に、丁寧に説明してまいりました。 小規模校には、教育活動や学校運営上、困難な課題がございます。 例えば、人間関係が固定化しやすく、クラス替えができない。クラブ活動や部活動が制限され、また人数の不足から大会に出場できないなどが挙げられます。さらに、専門教員の指導が受けられないことも考えられます。 これらのことは教育を進める上で大きな課題と考えており、学校を再編し適正な規模の集団を確保することが大切であると考えております。
153	【過疎化が進み、農業が成り立たなくなる】 学校区が市街地集中となり地域住民との繋がりが益々希薄になり、人口減少や過疎化が進み、これまで地域を守ってきた農業が成り立たなくなる。	学校教育の中には、地域との繋がりは大切だと認識しております。 地域づくりについては、「結の故郷ふるさと教育推進計画」などに沿いながら、公民館の拠点性を高めてまいりたいと考えております。
154	【再編される学校は他市、他県に普通にある学校です。何の魅力もない】 再編される学校は他市、他県に普通にある学校です。何の魅力もないということになり、通学面の不安、校区が広がるという不利益を被って子どもや保護者が通わせたいと思うのか。他市、他県への流出が起こる。	現在の学校の配置でも、人口の流出は進んでおります。その状況も踏まえて本再編計画案を提案いたしました。 これからの大野の教育を最優先課題に考えるとともに、市外からも注目され、大野で学びたいと思えるような魅力ある学校づくりに努めてまいりたいと考えております。
155	【再編されたら、とても不便なので市外に出ようと思います】 大野が好きで小学校も大好きです。将来自分の子どもが通う小学校が2校、中学校が1校になると思うととても不便なので市外に出ようと思います。将来大野に住む人がいなくなるような気がします。	
156	【市が進めている政策と真逆の行為ではないか】 地域に学校がなくなると、地域に根付く若い世代の人がいなくなってしまう。こうなると地域は衰退の一途をたどり、せっかく和泉地区で盛り上がりつつある活力ある地域づくりが出来にくくなる。 再編計画は市が進めている政策と真逆の行為ではないかと思う。	
157	【後継ぎに呼び戻そうと思っても学校の無い所へは帰ってこない】 地元で学校がなくなると、子供がいない家庭では、大野市以外に住んでいる孫を後継ぎに呼び戻そうと思っても学校の無い所へは帰ってこないと心配する声も聞かれる。	現在の学校の配置でも、人口の流出は進んでおります。その状況も踏まえて、本再編計画案を提案いたしました。 これからの大野の教育を最優先課題に考えるとともに、市外からも注目されるような魅力ある学校づくりに努めてまいりたいと考えております。 豊かな自然と結の心あふれる大野の地に住み、すばらしい教育環境で学ぶことの出来る大野の教育を目指します。 教職員が少なくなることは考えられますが、大野の子ども達の未来の為にご理解ください。 子どもの未来が輝いてこそ、地域も輝くものと考えております。
158	【より一層の少子化・過疎化を加速させる要因になる。】 未曾有の過疎化に直面し、財政的にも国からの過疎地補助金をもらい、消滅可能性都市である大野市ですが、人口減少社会・少子化の流れの中で、小学校10校→2校、中学校5校→1校という、急激な変化こそ、住民への心理的に大きな副作用としてより一層の少子化・過疎化を加速させる要因になる。	
159	【人口減少・地域経済の購買力(消費)減少・雇用減少など大きな影響をもたらします。】 「児童生徒数の減少」や人口減少を食い止めて、人口維持・増加させようとしているのではないのですか。「大野へ帰ろうプロジェクト」でポスターや卒業式ソングを広告代理店に依頼して高校生も活躍しているのに、「ふるさと」に帰っても地域で子育てできる学校がなくなり、市内中心部か市外に出ないと不便になるのでは「住みやすさランキング」にもマイナスで「人口流出」に拍車をかけることになります。それとも減少は仕方ないので、「座して死を待つ」がことさらなる減少を見越して少子化促進の対応をするのですか。教職員数が大きく減少すれば、人口減少・地域経済の購買力(消費)減少・雇用減少など大きな影響をもたらします。	
160	【就職、結婚、転職等の際、都市部に移住を考えると】 祖父母が近くに居て、親の働く場所があり、公共の施設や、学校が小さいながらも充実し、都市部に住む必要がなければ、必然と田舎の人口は減少傾向が改善、もしくは現状維持されると思うが、廃校予定地区において統廃合の結果、過疎化・若い世代の流出により、少子化が今まで以上に進む。再編が決まれば、教育委員会が思うより、人口流出はひどくなる。 廃校予定地区だけでなく大野を担う方々は、新しい学校の周辺に居住を希望するのではなく、福井市ほか、都市部に移住を考えると。社会人になろうとしている時、結婚しようとする時、住居を構えようとする時、転職しようとする時、後者を選ぶ気持ちになるでしょう。そしてそれが現実になると思う。	
161	【市外への人口流出を加速させ大野市全体の沈没を招きかねない】 この計画は、かなり強硬施策の手法であり、市民の感情、へき地、農村部の市民に負担並びに差別をし生活の権利まで脅かす、考慮にかけない計画案である。小学校2校、中学校1校は、大野市の地域性を無視するもの。スクールバス活用は市街地の市民の利益のみで農村部の市民は安心して子どもを育てられない。人口の市外への流出を加速させ大野市全体の沈没を招きかねない。	
162	【通うのに不便で安全が確実ではない。そんなところに通わせたい親はいないと思います】 この合併によって、本当に住みやすいふるさとと言えるのでしょうか。通うのに不便で安全が確実ではない。そんなところに通わせたい親はいないと思います。そして子どもの頃の思い出は、意外と強く残ります。楽しくそして誇りに思うふるさとなら大人になった時、大野の為に何かしたい、どうにかしたいと思えないのでは、住みやすくふるさとだとはいえないと思います。長々となりましたが、今一度本当にこれでいいのか考えてみて下さい。	
163	【人口減少問題に真剣に取り組む事が先決である】 優先課題(順位)が違う 教育委員会も市の総合戦略組織と議論し人口減少問題に真剣に取り組む事が先決である。 説明会ではタテ割り行政の悪い例を露見した。 結婚から出産 子育てまでもっと大胆で画期的な対策を出すべきだ。 (例えば第1子¥50,000- 第2子200,000- 第3子¥1,000,000- 支給する) これに1億以上支出すれば校舎建築費105億よりはるかに安く、大野へ移住する者にも魅力的な特典を与えれば人口減少に歯止めがかかるのではないかな。その他にも色々な事が考えられるが行政と教育委員会は人口増加に取り組む必要がある。	
164	【地域に学校を残して欲しい】 地域の創生と限界集落対策のためにも地域に学校を残して欲しい。	
165	市の職員は学校もない地域に若者が住みたいと考えるか。	
166	【過疎化に拍車がかかる今後の農村集落について、どのようなビジョンを持っているのか】 市街地の近くに大きい学校ができること、若者は、農村集落では家を建てて住まなくなる。農村集落は、今後、益々、過疎化に拍車がかかることになるが、市は今後の農村集落について、どのようなビジョンを持っているのか示すべき。	

167	【学校数が減り、通学困難な家族は市外に流出します】 平成35年に中学校が1校になれば、平成38年に小学校が2校になれば、計84人減ることになります。いくら児童生徒の生きる力をつける教育のためとはいえ、84名の教職員を減らすことはあまりにも大きな犠牲を負います。実に血も涙もない冷徹な再編内容だと思います。 この人口減少の時代になぜ、あえてこのようなことをしなければならぬのか。この状況を見て、これからしっかり学んで大野市に貢献しようとする子どもは育ちにくく、育ったとしても働く場所がないのは大きな問題です。学校数が減り、通学困難な家族は市外に流出します。市外勤務となる教職員もその家族も然りです。生徒や家族の転出に危機感がなくなったら、大野市全体に更なる人口減が加速して気がついたころには手遅れ状態になります。これは、周辺地域に暮らしてきた人々にとっては大変な死活問題です。人々の生活環境が整ってこそその学習環境です。だからこそ学校教育が一番重要だといえるのです。	
168	【人口減少の方向性を先に示してほしい】 人口減少は市全体の問題であり、小中学校再編の問題を提起する前に方向性を示してほしい。	平成26年12月に、人口減少対策と地方創生の施策の方向を提示した「まち・ひと・しごと創生総合戦略」が国において閣議決定され、これを受けて大野市では「大野市人口ビジョン・大野市総合戦略」を策定し、人口減少対策等に総合的に取り組んでいくこととしております。
169	【人口減少対策と合わせて方向性を示してほしい】 仕事が大野市に少ないのが人口減少のそもそもの原因であり、その対策と合わせて学校再編問題に取り組んで方向性を示してほしい。	
170	【住み慣れたふるさとから離れる人が、急に増えるのは、確実です。】 上庄小学校が10年後に無くなると、木本地域では、住み慣れたふるさとから離れる人が、急に増えるのは、確実です。 この広大で自然豊かな農地・森林を活用し、特産里芋など、農林業の推進、おいしい空気・水など環境、地域に伝わる伝統文化を地域全体で残し、余暇を楽しめるようにすることが大切。廃校は、まだまだ早すぎ、考え直すべき。子供が村を活気づけ、元気の源。いろんな関係者、地域の声をよく聞き、人口減少を少しでも止めるような施策をお願いします。	現在の学校の配置でも、人口の流出は進んでおります。その状況も踏まえて本再編計画案を提案いたしました。 これからの大野の教育を最優先課題として考えるとともに、市外からも注目されるような魅力ある学校づくりに努めてまいりたいと考えております。 また、再編後の旧校舎等の利活用については、再編推進協議会において協議してまいります。
171	【保育園の存続が危ぶまれることについてどう考えているか】 地域に学校がなくなると若者が「住みたい」という気持ちがなくなり、子どもがいなくなることで、保育園の存続が危ぶまれることについてどう考えているか。	
172	【保育料の見直しや子育て手当等の補助の充実を】 地域に安心して子育てできる環境をつくるために、保育料の見直しや子育て手当等の補助の充実を検討してほしい。	ご意見として承りました。 若い方が安心して子どもを育てられる環境の整備は大切であると考えております。
173	【市の方針と、真逆の対応としか思えません。】 企業誘致や市外から移住者を増やそうとしている市の方針と、真逆の対応としか思えません。	ご意見として承りました。
174	【「大野へ帰ろうプロジェクト」に結びついていない】 市が行っている「大野へ帰ろうプロジェクト」に結びついていない。市と教育委員会の意見はまとまっているのか。	
175	【大学を招致できないか】 大野に大学を招致できないか。大学生が街にあふれば、子供たちが減少しても街に活気が出るはずです。	
176	【補助金を出して人口を増やす方法を考えたほうが良いと思います】 大野市は子育て、児童、市外からの若者の移住者に補助金を出して住み良い大野市にして、人口を増やす方法を考えたほうが良いと思います。	
177	【教員数の減と配置】 現在の教職員配置では、自分の子のいる学校には教員は配置されていない。今の計画案では大野に小・中学生の子がいる教員は、すべて市外へ勤務となる。やはり、地域・風土を知る大野の先生が担当される方が、地域との連携も取りやすいと思う。	現在も進めておりますが、小中高交流人事、広域人事などを踏まえ、適切に対応してまいります。
178	【移住の大きなポイントが地域に学校があるということでした。】 私達は6年前、東京から新規就農者として、上庄に定住しました。未就学児を2人抱えての定住でしたが、非常に子育てしやすい環境だと感じました。移住の大きなポイントが地域に学校があるということでした。全国版の雑誌の取材などで地域の学校の重要性を話してきました。 再編計画どおり地域に学校がなくなるようでは、新規の移住者は来なくなるでしょう。新規就農者の斡旋とは矛盾した政策ではありませんか。上庄などの地方の今後の農業のことをどうお考えなのでしょう。	学校は、地域の方々にとって、かけがえのない存在であると考えております。しかしながら、学校の小規模化が進行している現状に鑑み、本市の将来を担う児童生徒の教育環境のより一層の充実を図っていくことが、教育委員会の役割であると考えております。 地域の活性化や人口減少対策は、教育のみならず市全体の問題であり、今後も継続して総合的に取り組んでいく必要があると考えております。
12【再編の進め方(①再編推進協議会)】		
179	【優先的に解決すべき問題を説明してほしい】 計画案がそれぞれの地域に与える影響や課題を整理し、優先的に解決すべき問題を地域住民に説明してほしい。	小中学校整備基本構想において、課題を整理し、再編推進協議会でそれぞれの地域の具体的な課題を挙げ、一つ一つ協議していきたくと考えております。
180	【デメリットについて、一つ一つしっかりと対処方法を提示してほしい】 再編によるメリットの話が中心であったが、市民が危惧するデメリットについて、一つ一つしっかりと対処方法を提示してほしい。	
181	【制服、かばん等に各学校で一斉変更するつもりなのか】 再編になった場合、小学校、中学校共に新1年生から新しい制服、かばん等に各学校で一斉変更するつもりなのか。	各地域の再編推進協議会で協議していきたくと思いますが、再編が確定すれば、数年前から順次変更していく方法もあると考えております。
182	【具体的にどのようにするかを決めておいての再編とすべきである。】 再編に伴う子供たちや保護者の不安および負担等について、具体的にどのようにするかを決めておいての再編とすべきである。	事前に、知見を持っておられる方、各地区、各団体、教職員などの方々に校名、校歌や校旗なども含め、学校のあり方、学校運営などについて協議いただきたくと考えております。 また、1年前からは合同授業や交流活動を行うなど、円滑な再編に向けて十分配慮します。詳細な事項については、再編推進協議会において、協議してまいります。
183	【オープンな議論がされていないのはおかしいのではないのでしょうか】 「学校再編推進協議会」などで議論されようとしていますが、一部の代表者だけでオープンな議論がされていないのはおかしいのではないのでしょうか。 地区ごとの説明会でも異論や反対意見が多くありました。PTAのアンケートでも賛成はわずか1割にすぎません。高校生の声としても青少年育成会議の「少年の主張」で堂々と発表したように「小規模校ほど学力が高い生徒が多くて、助け合う人間性も高くまれている。」としています。住民自治の観点からも、学校評価制度が導入されている現状から見ても、学校は子ども・父母・教職員・地域住民の財産です。 農業や森林業と同じく、いったん廃止してしまっただけでは再生が困難です。是非、存続の最大限の知恵と力を結集し、英断の努力を求めよう関係機関に働きかけをお願いします。	学校再編には、平成16年から取り組んでおります。3年半前から「少子化の現状と再編の必要性」、「学校再編計画(素案)」、「学校再編計画(案)」と段階を踏んで、慎重に、丁寧に説明してまいりました。 再編推進協議会の設立に当たっては、地区の方々や相談しながら委員を選出してまいりたいと考えております。
184	【地域との交流の場を継続してほしい】 学校に通う子どもと、保護者、地域の方は学校がなくなると寂しい。例えば体育大会、「いふりっこ祭り」がなくなってしまう。別の形で地域との交流の場を継続してほしい。旧校舎、校地は住民が期待の持てる提案をしなければいけないと思う。	再編計画案15頁に書いてありますように、地区の奉仕活動や体育大会や敬老会などの行事には従来どおり地区児童生徒が参加できるよう配慮いたします。 再編後の旧校舎等の利活用については、再編推進協議会において協議してまいります。
185	【地区の児童生徒が地区行事に参加するにはどうするとよいか考えを聞かせてほしい】 体育大会や敬老会などの地区行事には従来どおり・・・ 地区内に子どもの姿を見ることもなくなり、高齢者ばかりの地区になるのだらうと思います。 この地区の児童生徒が地区行事に参加するにはどうするとよいか考えを聞かせてほしいと思います。 小さなことばかりですが、調整や協議には地元の人も加えていただけるのでしょうか。	
12【再編の進め方(②児童館、放課後子ども教室)】		
186	【児童館はどうなるのか】 共働き家庭も多く、2校になった場合の児童館はどうなるのか。受け入れができれば現状に逆行することになる。	放課後子ども教室、放課後子どもクラブにつきましては、基本的には、今までどおりの運営を原則とし、保護者からの要望も取り入れてまいりたいと考えております。
187	【放課後子ども教室を継続してほしい】 小学校では、今まで放課後子ども教室が実施されているため、再編になった後も同様に継続してほしい。	
188	【児童生徒の環境変化への対応】 これまで同様、放課後子ども教室や部活動に参加・・・という点について学年によって下校時間が違うのにどのようにして同様に放課後子ども教室を維持するのでしょうか。保護者は子どもをどこへ迎えに行くことになるのでしょうか？	
12【再編の進め方(③公民館機能の強化)】		
189	【公民館活動で人口減少を食い止めた前例があるんですか】 教育長に「限界集落になったらどう責任とってもらえるんですか」と尋ねたら「公民館活動を通じて人口減少防止に励みます」との回答がありました。公民館活動で人口減少を食い止めた前例があるんですか。それならお示ください。	
190	【公民館を拠点にした地域づくりに努めたところで現在のレベルにはならないと思う】 小学校は、子どもが学ぶ場であるとともに地域のシンボリック施設であり、地域住民への開放事業という観点から見ても、その役割は重要である。再編後、公民館機能を強化し、公民館を拠点にした地域づくりに努めたところで、小学校が有った現在のレベルにはならないと思うがいかがか？	
191	【子育て世代を増やことや定住させることが喫緊の課題であり、その機能を公民館が代替するというのは無理だと思ふ】 大野市が将来にわたっても市であり続けるためには、子育て世代を増やことや定住させることが喫緊の課題であり、地域の核である小学校の存続は不可欠ではないのか。少なくともその機能を公民館が代替するというのは無理だと思ふ。	子ども達の教育を第一義に考え、これまで大切にされてきた結の心や進取の気象と、これからの社会を力強く生き抜く力を育てるため、学校再編を進めたいと考えているところです。 家庭教育や地域教育をはじめとする生涯学習の推進と地域づくりに取り組む、現在の公民館の役割を維持しつつ、地域づくりに果たす役割を強化するため、区長会や育成会などとの連携を図りつつ、公民館が、少子化を含めた地域の課題解決や、活性化に向けた役割・機能がこれまで以上に果たせるよう、取り組んでまいります。

192	【公民館では小学校の役割は果たせない】 「公民館機能を強化し、公民館を拠点とした地域づくりに努める」とあるが、公民館では小学校の役割は果たせない。避難場所としても小山区民全部は入れまない。地区の体育大会も公民館では狭くて行えない。小山小学校は歴史的にも精神的な支柱です。子ども達、孫達の声が聞こえていることで地域のまとまりを生んできた。これを公民館で果たすのは難しい。	
193	【公民館機能を強化する方策を示すべき】 再編により子ども達と地域とのつながりが少なくなり、地域の行事ができなくなる。今後、公民館機能を強化すると言うが、どのような方策を考えているのか示すべき。	
194	【学校の資料は、出来るだけ多くのものを保存、管理して欲しい】 過去の学校の資料というのは重要と思われるので、出来るだけ多くのものを保存、管理して欲しい。	大野の教育の貴重な資料につきましては、後世に伝えていかなければなりませんので、しっかり保存管理してまいります。
13【計画策定(①説明会)】		
195	【市民からの質疑応答、公表すべきだと思います。】 これまでの市民からの質疑応答のブラックボックス化。内容を公表すべきだと思います。	再編計画書の各説明会における質疑応答の記録につきましては、市教育委員会に情報公開請求があれば、開示いたします。
196	【説明会の議事録の作成は】 説明会の議事録がとられて検討材料として残されているのか。毎回同じ説明、答弁では意味がない。その度に案に修正をかけて、より良い計画に仕上げていただきたい。	
197	【資料(計数的なもの)不足で納得できない。】 10月11日の説明会は再編 改築前提の教育委員会の一方的な説明会で全く議論になっていない。生徒のメリットのみの説明でデメリット(例えばバス通学による生徒の体力低下など他にも多くある)も併記すべきである。地域に与える影響などまだまだ説明不足、資料(計数的なもの)不足で納得できない。	デメリットとしては、学校規模が大きくなりますと、児童・生徒一人一人が係活動や生徒会などの役割を持ったり、リーダーになったりする機会が少なくなります。また、通学時間も長くなると考えられます。しかし、再編による適正規模の学校には、学びに活力を生み、大きな学習効果があると考えております。
198	【メリットだけでなく、デメリットも同じように述べられたほうがいいのか。】 説明会で、学校再編のメリットだけでなく、デメリットも同じように述べられたほうがいいのか。また、教育的なことだけでなく、この再編案での大野市の過疎化対策や大野市の未来のメリット、デメリットなど大野市のまちづくりや未来について教えていただけませんか。お願いします。	過疎につきましては、学校だけでなく様々な社会的要因が重なっているのが現状であると考えられます。本再編計画案では、魅力ある教育環境を整え、子ども達が大きくなると大野に留まり、また、市外から子どもを呼び込むような教育を進め、大野の未来に貢献したいと考えております。
199	【市民の意見を広聴するものではなかった】 結の故郷づくりをめざす「ふるさとを知り、ふるさとを創る」学習の推進と教育ビジョンを主張している大野市教育委員会。今回の計画案は学校教育審議会、総合教育会議による独断的計画です。なぜなら、40回の住民説明会の内容は公表されていない。素案とこの計画案とは全くかけ離れている。今年10月になってやっと説明会を開始するが、市民の意見を広聴するものではなかった。	
200	【学校再編、何を基として決定したのかを丁寧に説明して欲しかった】 学校再編を進める意図の説明がよく分からない。 厳しい時代という認識と生き抜く力の必要性がなぜ再編につながるのか。少子化による学級の児童生徒数の減少は現実。教委の説明の中で再編のメリットがあると言われた。メリットが多い、大きいほうがベストなのか、また、適正規模の根拠はどこにあるのだろうか。 これらはすべて現状認識並びに未来の学校教育の在り方に対する価値観によるものであり、当然立場によって相違がある。教委の考えが本当に真実だといえるのかどうか。 今の厳しい社会を生んだのは誰なのか。競争社会を勝ち抜くことが人にとって最大の目標なのか。 学校再編に対するいろいろな意見がある中で、何を基として決定したのかを丁寧に説明して欲しかった。「子どものため」は保護者や地域の人々が一番思っていることだから。	学校再編は、大野市教育理念に基づく「優しく、賢く、たくましい大野人」を育てるために、小中学校の適正規模化を図りたいと考えております。 今回の再編計画案は、素案の段階でいただきました市民のご意見を反映しつつ、学校教育審議会と協議いただき、総合教育会議で協議、調整を行い、教育委員会決定しております。 なお、「厳しい社会を生き抜く」とは、「競争社会を勝ち抜く」ということよりも、その社会のあらゆる場面にあって、自らが存在感や自己有用感を持つことが出来るように育てることだと考えております。
201	【教育委員が自ら説明すべき】 教育委員会のメンバーが自ら説明すべき。説明会に出向き説明する意思があるか返答の公開をして欲しい。	教育委員会の構成員であり、教育委員会の事務執行責任者である教育長が各説明会に出席し、説明をさせていただきます。
202	【もっと前向きな話し合いを求めます】 苦しい言い訳ばかりの会を開くのではなく、どのような学校づくりをしたらいいか、もっと前向きな話し合いを求めます。もっと考え、一度立ち止まるのも必要だと思います。なぜそんなに焦っているのですか。全く子ども目線ではない。	学校再編には、平成16年から取り組んでおります。3年半前からは「少子化の現状と再編の必要性」、「学校再編計画(素案)」、「学校再編計画(案)」と段階を踏んで、慎重に、丁寧に説明してまいりました。再編の前年度より児童生徒や教職員の交流活動を取り入れ、スムーズな再編に努めます。
203	住民説明会自体の周知の低さ	本再編計画書の住民説明会の開催案内につきましては、広報おのやチラシ、市ホームページ、新聞等を利用し、出来る限り多くの方への周知に取り組んでまいりました。
13【計画策定(②パブリックの実施)】		
204	【応募要件には違和感を覚える】 自らを育んだ故郷のこれからを心配する者、再編の時期・再編後の大野に関わろうと考えている者までつまはじきにしかねない応募要件には違和感を覚える。	パブリックコメントの応募要件に、大野市出身の方も該当します。
205	【1項目A4一枚では足りない】 パブリック・コメント用紙“参考例”についても、「1項目一枚」と“参考例”文案のA4用紙半分のスペースでは到底足りない。	ご意見として承りました。
206	【極端な短期間である】 これだけの大きな再編計画に対し、パブリックコメントが約3週間と極端な短期間であること	通常のパブリックコメントの受付期間は2週間程度であります。今回は10月11日から10月31日までの3週間とさせていただきます。
207	【提出期限が短すぎる】 パブリックコメントの提出期限が短すぎる。もう少し時間をかけ検討すべきではないか。	なお、パブリックコメントの対象である再編計画案につきましては、9月1日に市のホームページで公開しております。
208	【なぜ様式に「ご感想」を入れなかったのか】 なぜこの用紙を「ご意見」「ご提言」「ご感想」としなかったのか。自分の案がなくても、感想は聞かなくていいと思う。	パブリックコメントの目的は「その影響が及ぶ対象者などの意見を事前に聴取し、その結果を反映させることによって、よりよい行政を目指すもの」であることから、「ご意見」「ご提言」としました。感想を記載いただいても結構です。
209	【パブリックコメント期間の短さも納得いきません。せめて(案)を全家庭に配付していただきたい】 まず最初に、再編計画について一般市民には行き渡っていない状況で進められていることに驚きを感じました。パブリックコメントを回収する期間の短さも納得いきません。せめて(案)を全家庭に配付していただきたいと思いました。	再編計画書の作成及びパブリックコメントの募集は、市ホームページ、市報10月号、報道機関による周知を行い、説明会の開催については、前述の他、全小学校、公立・私立幼稚園、保育園の保護者に通知させていただきました。 また、再編計画案については、全戸配布は行っておりませんが、パブリックコメントの受付窓口となっている各公民館等に設置いたしました。
13【計画策定(③学校教育審議会等)】		
210	【閉鎖的な場で決めてしまうのはいかがなものでしょうか。】 教育とは、政治(市政)における根幹の一つにも関わらず、協議会という閉鎖的な場で決めてしまうのはいかがなものでしょうか。さらには、再編後の大野市全体としてもビジョンが、まったく見えてきませんでした。	学校教育審議会は市議会、区長連合会、まちづくり団体、PTA連合会、公立・民間保育園保護者会、小・中校長会から推薦された委員と教育長で組織されており、教育長以外は全て「市役所以外の人」です。会長は、委員の互選により決定しております。
211	【学校教育審議会のメンバーは】 大野市学校教育審議会のメンバーはどのような構成か。責任者は。	教育委員は、地方教育行政の組織及び運営に関する法律で、設置が義務付けられており、5人の委員をもって組織します。委員については、教育・文化に関して見識ある者を地方公共団体の長が議会の同意を得て任命し、任期は4年となっております。
212	【学校教育審議会、総合教育会議に第三者を入れる考えはあるのか。】 学校教育審議会、総合教育会議には市役所以外の人や第三者を入れれば、より公正な計画案が出来ると思うが、そういう考えはあるのか。	総合教育会議につきましては、「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」で、市長と教育委員会で組織することが規定されております。 なお、大野市全体のビジョンにつきましては、第五次大野市総合計画を参考にさせていただきたいと思っております。 (用語の説明を追加し、反映)
13【計画策定(④策定期間)】		
213	【基本構想策定の期限を1年延ばす】 29年度中の基本構想策定の期限を1年延ばし、大野市の将来を案する市民に納得を得られる最終案にまとめること。	これまで、3年半をかけて丁寧に進めてきたことを踏まえ、計画通り策定したいと考えております。今回の説明会やパブリックコメントでいただきましたご意見についても、総合教育会議及び教育委員会に報告を行い、十分検討いたしました。
214	【計画策定の延期は考えていないのか】 平成29年1月には小中学校再編計画の策定・公表、平成29年度小中学校再編整備基本構想策定の延期は考えていないのか。	
215	もっと時間をかけて進めないか。	
216	【時期が早すぎる。大野市民の半数以上が賛成しているとは思われない。】 「平成29年1月 小中学校再編計画の策定、公表」とされているが、時期が早すぎる。説明会の各会場では反対意見がほとんど。素案から大きく変わった案に反対の意見をよく聞く。大野市民の半数以上が賛成しているとは思われない。もっと賛同を得られてから策定すべきと考えるがどうか。	
217	【どうあるべきか時間をかけて検討する必要がある。】 学校再編にあたり、メリット、デメリットが十分に議論され、整理されていないと思う。子ども達の将来を第一に考え、どうあるべきか時間をかけて検討する必要がある。	
218	拙速なやり方はやめて慎重に議論すべきである。	
219	【もっと市民と話し合いして市民の理解を得て欲しい。】 小浜地区では、表明から10年も出向いて説明をしてきたそうですが、大野市はなぜ急いで再編するのですか。もっと市民と話し合いして市民の理解を得て欲しい。	
13【計画策定(⑤意見の反映)】		
220	【在学する子どもたちの意見を十分に反映させなければならないのではないか】 当事者である子どもたちに計画を“説明”し、子どもたちの意見が“直接”表明できる機会が、「推進協議会」設置要項案にも明示されていない。今の大野の子どもたちの現状をベースに未来のことを決める以上、現在在学する子どもたちの意見を十分に反映させなければならないのではないか。	子どものことは、大人が責任を持って決めていただきたいと考えております。

221	【ゆっくり、子どもの意見も入れて見直して欲しい】 大人の目線と子どもの目線が違うこと、本当に分かっていますか。子どもの意見こそ取り入れるべきだと思います。通学するのは子ども。大人ばかりの会議や説明会では、本当の意味での「児童生徒のよりよい教育環境」は目指せないと思います。もっと、時間をかけて市民全体、子どもの意見を取り入れて案を見直していただきたいです。	
222	【再考を望む声が多くあったと思う。今後どのようにされるのか。】 文科省の公立小学校・中学校の適正規模・適正配置等に関する手引書(案)によると、「学校統合に関して留意する点」のなかに、「地域とともにある学校づくり」が求められていることを踏まえれば、学校規模の適正化の適否を検討する上では、学校教育の直接の受益者である児童生徒の保護者や将来の受益者である就学前の子供の保護者の声を重視しつつも、地域住民や地域の学校支援組織と教育上の課題やまちづくりも含めた将来ビジョンを共有し、十分な理解や協力を得ながら進めていくことが大切になってきます。」とある。この小中学校再編計画(案)について10月の各会場での質問意見を伺っていても、保護者もしくは地域住民から見た場合、ベターとは思えない、再考を望む声が多くあったと思う。今後どのようにされるのか。	学校再編には、平成16年から取り組んでいます。3年半前からは「少子化の現状と再編の必要性」、「学校再編計画(素案)」、「学校再編計画(案)」と段階を踏んで、慎重に、丁寧に説明してまいりました。
223	【現場の教員の声を聞いて取りまとめる考えはあるか】 市民の方たちは現場の教員の声を判断材料にしたいのだと思う。 「教員が賛成・反対を表明すると、異なる意見の保護者や生徒との関係が悪くなる」という考えは、その通りだと思う。しかし『案のとおり再編した場合のメリット・デメリット』、『大野における大規模校、小規模校それぞれのメリット・デメリット』などを現場の教員に聞いて取りまとめるといった方法はあると思うが、それを行う考えはあるか。	教職員を対象とした説明会を開催いたしました。また、教職員の方々のご意見もお聞きいたしました。
224	【計画案は、広く地域住民の意向を踏まえていないと思われる】 教育委員会制度の意義は、①政治的中立性の確保、②継続性、安定性の確保、③地域住民の意向の反映、教育は、地域住民にとって身近で関心の高い行政分野であり、専門家のみが担うのではなく、広く地域住民の意向を踏まえて行われることが必要。 教育委員会制度の特性は、①首長からの独立性、②合議制、③住民による意思決定(レイマンコントロール)住民が専門的な行政官で構成される事務局を指揮監督する、いわゆるレイマンコントロールの仕組みにより、専門家の判断のみによらない、広く地域住民の意向を反映した教育行政を実現。 以上は文部科学省の教育委員会制度についての概要であるが、現状の小中学校再編計画(案)は、広く地域住民の意向を踏まえていないと思われる。	この再編計画案は、素案の説明会で頂戴した市民のご意見などを反映させていただいたものであり、説明会で頂戴したご意見はきちんと総合教育会議や教育委員会に報告させていただき、反映の是非も含め検討いたしました。皆さんのご意見は真摯にしっかりと踏まえたものであります。 パブリックコメントで寄せられたご意見については、教育委員会の考え方も含めて公表いたします。
225	【市民からの意見はどのように反映されているか】 中間報告書の市民からの意見はどのように反映されているか示して欲しい。	
226	【予定通りに策定するのか。】 市は大野市民の意見を広聴、公表せず予定通りに策定するのか。	
227	【どうか、最善の方法を取っていただけることを望みます。】 多くの市民が反対する中、学校再編を推し進める理由を納得できるように説明していただきたい。なんとか財政難を乗り越えられないでしょうか。子どもの為にもっと出来ることがあるはず。どうか、最善の方法を取っていただけることを望みます。	これまで、望ましい学校の規模と校数を検討してきましたが、進行する児童生徒数の減少に鑑みずと、本計画案が最良と判断し、本再編計画案を提案させていただきました。
228	【せめて2つ3つの対案を示し、住民の意見を市政に反映できるような策を考えていただきたい。】 めいりん、結とびあ2回参加しました。沢山の意見を聞いているはずなのに市教委当局の全くの進歩のなさには失望しました。再編計画(案)の中でも幕末大野藩のことを例に挙げているが、そこには何の工夫も知恵を絞ったあとが見られません。幕末大野を見習うなら、大野に移り住みたいような工夫をするのが、市政を預かっている方の仕事だと思います。この計画では人口は流出し、大野市衰退の元凶となることは免れないことでしょう。市民の意見を聞こうとしない市政には、結のくにを説く資格はないと思います。事務局の説明では全く今回の案は納得できません。せめて2つ3つの対案を示し、住民の意見を市政に反映できるような策を考えていただきたい。	
229	【もう少し民意を尊重できるやり方を望む】 編成ありきで進めていくやり方はおかしい。多額な市費を投入するのであれば、もう少し民意を尊重できるやり方を望む。	学校再編には、平成16年から取り組んでいます。3年半前からは「少子化の現状と再編の必要性」、「学校再編計画(素案)」、「学校再編計画(案)」と段階を踏んで、慎重に、丁寧に説明してまいりました。
230	【地域コミュニティとの関係の「希薄化」についての対応策について、具体的な対応が全く記されていない。】 地域コミュニティとの関係の「希薄化」についての対応策は、再編計画「案」の段階でも非常に重要な要素であり、今再編計画の根拠となっているであろう「公立小学校・中学校の適正規模・適正配置等に関する手引(以下、手引)」においても、住民の大きな懸念材料としてとらえられ、いくつかの対応策を例示し、学校の再編・統合の際に住民から理解を得るうえで「極めて重要な要素」としている(手引26ページおよび29ページ)。しかし、今再編計画案ではその点の具体的な対応が全く記されていない。地域から学校が消えることは、地域住民にとっては大きな懸念材料であり、一大事である。その対応策の例示すらされないのでは、親・子ども・地域住民およびコミュニティの懸念は消えない。	学校は地域の方々にとって、かけがえのない存在であると思っております。しかしながら、学校の小規模化が進行している現状に鑑み、本市の将来を担う児童生徒の教育環境のより一層の充実を図っていくことが、教育委員会の役割であると考えております。現在、小中学生が地域の奉仕活動やお祭り、体育大会などの行事に参加するなどの取り組みを行っております。地域の方々とのふれあいや交流は、子ども達の豊かな人間性を育てるうえでとても大切だと考えており、再編後もこれらの活動は継続して取り組んでまいります。
231	【計画案、市議会、住民説明会の答弁から、子どもや親、住民、地域コミュニティからの不安・不満等へのきめ細やかな対応が反映されていない。】 手引では、統合に関しては地域事情、学校の実情、子ども、親、地域住民・コミュニティの理解等に配慮し、詳細な検討を経て慎重に決定するよう幾度も釘を刺している。「行政が一方的に進める性格のものでないことはいうまでもありません」「機械的に適用することは適当ではない」と書いており、学校再編・統合計画を進める際の注意点を「取り組み例」も示しながら詳細に書くなど、子どもや親、住民、地域コミュニティからの不安・不満等にきめ細やかに対応するよう求めている。今再編計画案、市議会住民説明会での答弁からは、きめ細やかな対応のほとんどが反映されていない。	平成25年6月から、各地区区長や保護者の皆様を対象に「少子化の現状と再編の必要性について」の説明会を初めとして、これまで今から3年半前をかけて「少子化の現状と再編の必要性」、「学校再編計画(素案)」、「学校再編計画(案)」と段階を踏んで、丁寧に説明してまいりました。
232	【住民の理解を得たと考えているのか。】 住民説明会開催前の市PTA 連合会のアンケート結果では、賛成少数であった。予定されていた説明会を終え、住民の理解を得たと考えているのか。	今回の再編計画案には、素案の説明会で頂戴した市民のご意見などを反映させていただいており、今回も、説明会やパブリックコメントで頂戴したご意見はきちんと総合教育会議や教育委員会に報告させていただき、教育委員会で判断いたしました。
233	【どのようにして理解を得たかどうか判断するのか。】 説明会にて、「皆さんの理解を得て、この案を進めていきたい」との説明が何度もあったが、どのようにして理解を得たかどうか判断するのか。	
234	【理解が得られない場合は、この案はどうするのか。】	
235	【理解が得られなくてもこの案を進めていくのか、質問します。】	
236	【この状況では多くの賛同を得られない。市民全体としっかり話し合うべき。】	
237	【希望した地区から段階的に進めるべき】 何をもちて理解を得たというのか。少しずつ希望を聞いて納得して希望した地区から段階的に進めるべき。	
238	【若い世代は、大規模化を望んでいないということでないのか。】 地域の人、当事者の保護者が希望していない方向をどんどん進めてしまうのはいかがか。ずっと前から少子化でそれを承知で生活拠としている若い世代は、大規模化を望んでいないということでないのか。	これまで、望ましい学校の規模と校数を検討してきましたが、進行する児童生徒数の減少に鑑みずと、本再編計画案が最良と判断しております。「子どもは子どもから教わるのが最も多い」との考えのもと、より多くの多様な個性による磨き合い、高め合う教育が極めて大切だと考えております。
239	【各小学校単位で学校再編協議会を立ち上げ、話をまとめる。】 小学校に関しては、各学校で学校再編協議会を立ち上げ、各学校単独でいくのがいいのか、近くの学校に加えてもらうのがいいのか、各学校単位で話をまとめる。規模の小さい学校が他校に加わりたい等の話は、必要に応じて各協議会が合同で会議を持つようにする。	
240	【再編推進協議会においてどのような再編がいいのかも一度検討すべきと考える。】 今回の説明会で保護者や地域での納得は得られていないと感じており、この再編計画案ありきの進め方ではなく、地区ごとの再編推進協議会においてどのような再編がいいのかも一度検討すべきと考える。	
13【計画策定(⑥)アンケート、住民投票の実施】		
241	【当事者となる子供たちの保護者へのアンケートの実施・公表を検討願う。】 お子さんが未就園や妊娠中の方も含めて、将来、合併の当事者となる子供たちの保護者の意見をもっと積極的に聞くべきだと考える。計画案の配布や、園や学校や支援センターなどを通してのアンケートの実施・公表を検討願う。	子育て支援センター通所者への説明会を2回、保育所、幼稚園保護者を対象に3回開催しております。再編計画は、総合的・複合的な内容であり、それに対する評価等をアンケートという形で正確に把握することは技術的な観点などから困難であり、なじまないと考えております。
242	【住民アンケートの実施の必要性をどのように考えているのか】 また今後、教育委員会による住民アンケートの実施の必要性についてどのように考えているのか。	
243	【基本構想の賛否を問う市民投票を実施してほしい。】 市民の意見、賛否を問う機会が少なすぎる。市民多数合意の基に、基本構想策定に至るべきではないでしょうか。基本構想の賛否を問う市民投票を実施してほしい。	住民投票について、教育委員会はお答えする立場にはありません。
244	【住民投票に参加できるようにすることは必要ではないか。】 「学校教育ジョン」として主権者教育が触れられていないが、市選管も模擬投票など推進し、投票行動を呼びかけているが、「再編計画」をテーマにすることもあれば、高校生なども直接請求・レファレンダムをしたり、住民投票に参加できるようにすることは必要ではないか。	
245	【市民投票にて決すよう希望する。】 教育委員会並びにその行政の指針の可・不可を市民投票にて決すよう希望する。	
246	【住民投票によって住民全体の意思を明らかにするのがよいのではないか。】 児童生徒のよりよい教育環境というのは何か。登下校にからんでくる諸問題、統合によるプラス面とマイナス面、保護者にかかってくる負担、地域と学校のつながり、新校舎建設の必要性等々義務教育だからこそ住民の合意が必要である。大野市小中学校再編ということは大野市として稀にみる大きな問題であるだけに市議会も市教委も頼りないとすれば、住民投票によって住民全体の意思を明らかにするのがよいのではないか。	

247	【市民と検討を重ねていくことができないのであれば、住民投票を行ってほしい。】 素案時の内容と大きな変化があり、再編される時までに何も経過説明がないまま、さらに変更があるのではないかと思うぐらい、市と市民との間の信頼関係がなくなっている。未来の子どもたちのために市民と検討を重ねていくことができないのであれば、住民投票を行ってほしい。	
13【計画策定(⑦関係機関の意見)】		
248	【大野市の都市計画課の学校再編に関する案を回答してください】 学校再編の根拠の一つとして、児童生徒数の減少を根拠としていますが、再編地域で引っ越しをする場合がある。すでに再編が決定している阪谷では6歳未満の子供が転校をするぐらいなら今のうちに引越してしまおうという世帯があった。 学校再編は、大野市のまちづくり・都市計画と関連があるのは間違いありません。以下の意見に対して回答を求めます。 大野市の都市計画課の学校再編に関する案を回答してください。	学校の小規模化が進行している現状を鑑み、本市の将来を担う児童生徒の教育環境のより一層の充実を図っていくことが、教育委員会の役割であると考えております。 地域の活性化や人口減少対策、まちづくりは、教育のみならず市全体の問題であり、市一丸となって今後も継続して取り組んでいく必要があると考えております。
249	【県土木部都市計画課の学校再編に関する案を回答してください】 福井県まちづくりアドバイザー派遣制度を利用して福井県土木部都市計画課の学校再編に関する案を回答してください。	県からの回答は以下の通りでございました。 「福井県アドバイザー派遣制度は地区の課題に対応した情報の提供や有用と思われる制度の概要、他の地区のまちづくりの事例を紹介する制度であるため、大野市の学校再編に関する案は回答できません。」
250	【電通日下慶太氏の学校再編に関する案を回答してください】 大野へかえろうプロジェクトで公費で依頼をしている株式会社電通 マーケティング・クリエイティブセンター コピーライター 日下慶太氏の学校再編に関する案を回答してください。	本市の人口減少対策プロジェクトを委託している㈱電通の社員の日下慶太氏は、学校再編に対して意見を述べる立場にないことから、回答を求めることはできません。
251	【市の都市計画課と、大野市長と、教育委員長、議長、関係機関などが参加する住民説明会の日程を回答してください。】 いままでの説明会では大野市のまちづくり・都市計画と関連があるにも関わらず関連部署が出席していませんでしたので、市民は大野市のまちづくり・都市計画に関する質問に一切回答を得られませんでした。いままでのメンバーに加えて、大野市の都市計画課と、大野市長と、教育委員会委員長と、大野市議会議長と、大野市議会総務文教委員長と、大野市議会産経建設委員長と、大野市議会民生環境委員長と、大野市議会人口減少・若者定住対策委員長と、無償でお越しいただける福井県まちづくりアドバイザーと、公費で依頼を行っている株式会社電通 マーケティング・クリエイティブセンター コピーライター 日下慶太氏が参加する住民説明会の日程を回答してください。	ご提案のような会の開催はいたしません。
252	【市役所全体でこの計画を考えないと市民に大きな負担を強いることになる。】 これまで小学校が地域で果たしてきた役割は、公民館だけではとても果たしきれないと思う。教育委員会だけでなく、市長をトップとして市役所全体でこの計画を考えないと市民に大きな負担を強いることになる。	再編計画は、説明会の開催、パブリックコメント手続きを経て、市長と教育委員会による総合教育会議で協議・調整を行い、教育委員会で決定することとなっております。 地域振興につきましては、全庁上げて取り組んでいく必要があると考えております。
13【計画策定(⑧その他)】		
253	【再編致し方ない】 大野市小中学校再編について、子供の人数が減少している現状を考えれば、致し方ないと思う。少人数学級よりも、ある程度人数がいて多様性・競争性があった方が、子供達の心身の発育のために良いのではないと思う。部活動の現状はチームスポーツが成立しないほど人数が減っている。人口減に伴い税収の減収が予想されるため、施設を集約して負担を抑える必要がある。	ご意見として承りました。
254	【未定項目が多すぎて、議論のしようがない】 未定項目が多すぎて、議論のしようがない部分が多すぎると思う。 このままではどのように市民の意見が反映されたのか、されていないのか、誰もわかりません。	学校再編計画は、学校の小規模化が進行している現状を鑑み、本市の将来を担う児童生徒の教育環境の充実を最優先課題として、平成25年6月から平成26年5月にかけて、各地区区長会や保護者の皆様を対象に「少子化の現状と再編の必要性について」の説明会を初めとして、これまで3年半かけて「少子化の現状と再編の必要性」、「学校再編計画(素案)」、「学校再編計画(案)」と段階を踏んで、丁寧に説明してまいりました。 今後、小中学校整備基本構想の中で、課題を整理し、再編推進協議会で、それぞれの地域の具体的な課題を挙げ、一つ一つ協議していきたくと考えております。
255	【曖昧な事項、再編されてしまっただけではできないことも出てくる危険性。】 再編する前にある程度具体的な条件を決めておかなければならない事項も、現時点ではかなり曖昧な状況となっている。再編後に検討するとなっているが、再編されてしまっただけではできない事項も出てくる危険性。	
256	【これから検討するというのばかりでは困る。】 結局困るのは子どもで、具体的にどうすると説明して欲しい。これから検討するというのばかりでは困る。具体的に決めてから進めてもいいのではないか。	
257	学校再編計画(素案)を元に議論を継続することを提言する。	
258	提言:この計画案を全部見直し、無理のない提案にして策定し直すこと	
259	【納得できる(案)を是非各方面から提示して練り直すべきです。】 大野市小中学校再編計画(案)の説明会は、納得できる段階ではありません。納得できる(案)を是非各方面から提示して練り直すべきです。でなければ、大野市は滅亡します。中学校1校にすることが改革でも躍進でもありません。基本となる考え方を今一度、教育委員会の立場でなく市民として提示して下さい。大野の歴史において、 ①環境は最高です。これを維持していくことです。 ②統合により特色は出せません。今の状態は最高です。 ③建物建設の費用、維持費用いわゆる箱物を少数の権力者のしてやった、改革したという名譽のために学校の数を減らすことは何の利益もないことを今一度考え直したいものです。	現在の学校の配置でも、人口の流出は進んでおります。その状況も踏まえて、本再編計画案が最良と判断し提案いたしました。 大野の先人から受け継がれてまいりました結の心や進取の気象を育てるとともに、これからの社会を力強く生き抜く力を育てる教育を推進することを大切に考えております。また、豊かな自然と結の心あふれる大野の地に住み、すばらしい教育環境で学ぶことのできる大野の教育を目指します。
260	【公教育による地域格差と差別を生む】 統廃合による一極集中と地域に学校がなくなれば、子どもの修学にかかわる憲法26条に違反し公教育の責任放棄と教育の差別・選別のみならず、公教育による地域格差と差別、交通費や住居費の負担可能などによる経済的格差と差別を持ち込むことである。	公教育における教育の機会均等は当然のことでございますので、大野市教育委員会もそのように進めてまいります。
261	【手引によって学校再編・統合を上から進める手法自体私自身は賛成しかねる。】 この手引はあくまで「参考例」程度のものであり、金科玉条としなければならない性質のものでは断じてない。手引によって学校再編・統合を上から進める手法自体私自身は賛成しかねる。	学校の小規模化が進行している現状を鑑み、本市の将来を担う児童生徒の教育環境のより一層の充実を図っていくことが、教育委員会の役割であると考え、大野市の教育の現状に基づき、これまで望ましい学校の規模と校数を検討してまいりましたが、本再編計画案が最良と判断し、提案いたしました。
262	【法律通りの学校規模に再編を行った方が財政的に助かると捉えられる】 公立小学校・中学校の適正規模・適正配置等に関する手引には、小規模校を存続させる場合についても触れている。しかし、大野市としては、大野市小中学校再編計画(案)の通り進めた方が、文科省に言い訳しなくて済むと思っているようにしか捉えられない。そして、公立小中学校の施設整備に対する国の補助金(負担金)について定めた法律通りの学校規模に再編を行った方が財政的に助かると捉えられるが、どう考えているのか。	
263	【めいりんのあるべき機能をなくす意味を市民に説明して欲しい。】 10年前に複合施設として31億円をかけて建設されためいりんは、街づくりの起点として整備され、市民活動の拠点となっている。この計画は、めいりんから小学校機能を切り離し、めいりんが目指していた内容と逆行することになり、子どもから高齢者まで生涯を通じて学びあう機会を無くすことになる。たったの10年で目標を無くし、20年で役目を終えてしまうこと、そのあるべき機能をなくす意味を市民に説明して欲しい。	再編後の旧校舎等の利活用については、再編推進協議会において協議してまいります。
264	【小学校と中学校中心でどのようなまちづくりをするのか。】 小中学校は地域づくりの重要な資源です。小規模地域にも学校があることは ①地域住民とのつながりの中でその地域で必要とされていることを学ぶことも重要です。 ②将来、子供達が戻ってくるには、その地域で学んで育った経験が何より重要だと思ふ。良い経験のない場所には絶対帰って来ないことを実感している。 ③流れでは、今まで通り小規模校を維持しようとする地域も多い印象を受けている。 地域とのつながりを断つ今回の学校再編計画は、私たち自らを将来苦しめることになると思う。教師数や教育費も徐々に減少し、グローバル化・多様化・専門化する社会、住民も減る人口減少社会の中で、学校教育は、学校だけでは難しい時代にあると思う。地域とのつながりを再認識して、まちづくり計画から見直すべきではないか。大野市の長期的な都市計画の中での位置付けで、その先に学校再編があるのならそれも納得できると思いますが、今回の再編の話は、唐突すぎると思う。 小学校と中学校中心でどのようなまちづくりをするのか。それが全く見えない再編計画は同意できない方が多いのではないか。	学校再編は、教育を第一義として進めており、まちづくりの方法として取り組むものではないと考えております。 しかし、地域とのつながりを大切にしながら進めていきたくと考えております。
265	【「〇〇地区出身」という帰属意識も薄れていくのではないかと危惧する。】 市街地周辺地域の子どものとっては、学級規模が現行より大きくなり、出身地域のコミュニティからも距離的に遠くの中で「〇〇地区出身」という帰属意識も薄れていくのではないかと危惧する。	「〇〇地区出身」として、「大野市出身」として、自慢できるふるさと教育を推進いたします。